

大阪薬科大学報

34

大阪薬科大学広報委員会

1996年(平成8年)9月30日発行

移転特集号



薬用植物の紹介

トウキ (*Angelica acutiloba* Kitagawa) (セリ科)

トウキは当帰と書き、「まさに帰らんとす」と読める。この薬用植物の薬効を上手に言い表していると思われる。病弱で実家に戻り、トウキを用いて療養していた嫁さんが、健康を回復して、まさに嫁ぎ先に帰ろうとしている光景が目に見えかぶ。

トウキのタイプ標本は、オオブカトウキで、奈良県を中心に栽培されていたものから選ばれた。オオブカは奈良県五条市大深（おぶかと呼んでいる）に由来し、このトウキが大深地区で育て上げられたことを意味している。

オオブカトウキの種子が北海道に持ち込まれ、栽培が試みられた。これはかならずしも成功しなかったが、昭和初期にはよく育つ品種が選抜され、ホッカイトウキと名付けられた。これは大形で、根の生育もよく、栽培しやすかった。その種子が奈良県吉野郡吉野町に持ち込まれ広がった。従来からのオオブカトウキがどんな形をしていたか、思い出せない時期が続いた。

バイオ技術も使って、典型的なオオブカトウキの復活が図られた。最近では、栽培地が五条市大深地区から県境を超えて和歌山県伊都郡高野町富貴地区に移り、大深地区より一段と厳しい自然条件の地区で、馬尾当帰の名前で栽培されている。十津川上流の奈良県吉野郡天川村でも、オオブカトウキの栽培が行われ、天上（てんじょう）当帰と呼ばれている。中国の「当帰」は、オオブカトウキやホッカイトウキとは別種で、カラトウキと呼ばれる。これらの植物の根を湯通し乾燥したものが生薬の当帰である。

当帰は多くの漢方薬に配合される。当帰芍薬散、当帰四逆湯、四物湯、胃風湯、乙字湯、十全大補湯、補中益気湯、加味逍遙散、女神湯、人參養榮湯など重要な漢方薬に使われる。紫雲膏は華岡青洲が考案出した薬であるが、紫根と共に、当帰が使われる。当帰を配合する漢方薬には婦人病に使われるものが多く、当帰特有の香がある。よく使われる漢方薬であり、多くの人は当帰の香から漢方薬を連想する。

漢方薬に習って多くの薬が作られてきたが、婦人病薬の手本は当帰芍薬散であった。中将湯、実母湯、命の母、ルビーナ、さぶん湯、養命酒など虚弱な女性に勧められる薬は当帰を含む。香の本体はフタ



リド類といわれる成分であるが、薬効成分でもある。血行改善効果を示し、健康回復に役立つ。香が臭覚を刺激し、神経を介して、生理作用を活性化するとされている。

多くの薬は血液に溶けて、体内を回って効果を現すが、臭覚を刺激する成分は空気中に広がって作用するので、非常に低い濃度で効果を示す。血液を媒体にする作用と空気を媒体にする作用は強さが違うと思われる。空気を介する場合は、あまりにも濃度が低く、現在の科学技術では量を測定できない。従って、当帰の臭覚を刺激して起こす薬理効果を証明するには、新しい測定技術を開発しなければならない。

最近、血管の内皮が数種の生理活性成分を作り出して、血管の働きに影響を及ぼしていることが明らかになってきた。一方、当帰の香の成分が血管内皮成分の生理作用に影響を及ぼしていることが明らかになってきた。当帰の血行改善と関係があるのかも知れない。

セリ科植物の分類は未解決の部分が多い。遺伝子の解析が進むにつれて、母方の系譜はかなり明らかになり、面白い問題が提示されている。薬学的にも、当帰を含む漢方薬が血行改善だけでなく、痴呆症の治療や免疫力の回復にも有効であるとの期待が寄せられている。トウキ（当帰）は2千年前から使われ、今また、新しい時代を切り開くことが予感され、一段と魅力的な薬用植物として、注目され始めている。

(文・写真 薬用植物園長 草野源次郎)

目 次

薬用植物の紹介	草野源次郎
特集	
高槻キャンパスへの移転にあたり	理事長 大村 栄之助… 2
新キャンパスに移って	学 長 岡 源 郎… 3
学生諸君に期待する	学 生 部 長 望 月 伸三郎… 4
新キャンパス記念式典・祝賀会举行	5
新校舎建設に携わっての雑感	元建設委員長 栗 原 拓 史… 6
移転の経緯について	元移転委員長 森 逸 男… 6
施設紹介	7
環境の保全について	環境保全委員長 松 永 春 洋… 13
就職部長就任にあたって	就 職 部 長 森 逸 男… 14
就職部だより	16
本学の薬学教育について	カリキュラム委員長 千 熊 正 彦… 20
薬学教育検討委員会よりの報告	薬学教育検討委員 森 逸 男… 21
第81回国家試験の結果と分析	薬剤師国家試験対策委員長 石 田 寿 昌… 22
平成8年度学校法人予算について	事 務 局 長 河 野 光 次… 24
平成7年度学校法人決算について	事 務 局 長 河 野 光 次… 25
オープンキャンパス初日を終えて	教 務 部 長 沼 田 敦… 26
第3回市民講座を終えて	市民講座委員長 玄 番 宗 一… 27
薬用植物園見学会について	薬用植物園長 草 野 源次郎… 28
学位記授与式・卒業式・入学式	29
学位授与	29
研究助成	31
平成8年度文部省科学研究費補助金採択状況・平成9年度入学試験概要(全日程)	32
平成8年度行事予定	33
教務課だより	34
学生課だより	35
保健室だより	36
図書館だより	37
人事/海外出張	37
各部・委員会・委員一覧	39
教員研究業績一覧(1995年)	42
親和会だより	50



高槻キャンパスへの移転にあたり

理事長 大村 栄之助

大阪薬科大学は、明治37年大阪道修薬学校として発足してから、90有余年を経過した歴史的に古い伝統ある薬科大学であります。この間65年の長い期間、松原市高見ノ里に在って、親しまれてまいりましたが、校舎の老朽化、狭隘により、新しい大学としての諸要望に対応し難くなり、よき移転先候補地の選定が、長い間の懸案でありました。

平成4年3月高槻市の斡旋により日本住宅都市整備公団から現在の土地を購入し、大学の全面移転計画に着手いたしました。時あたかもバブルの崩壊に遭遇し、一時頓挫、停滞のやむなき状態を経過しましたが、この間にあっても大学移転という大事業を推進せねばとの理事、評議員の熱意と、大学教職員の力強い協力の下に打開策の立案に努力し、大学として諸般の情勢を勘案し、平成8年4月までに全面移転を行う方針を決定致しました。

平成6年2月、まず設計は安井建築設計事務所に、同年7月、施工は大林組に依頼することに決定しました。学内の実際の設計に当たっては、栗原建設委員長を中心に委員の諸先生方、ならびに関係諸氏の並々ならぬご協力により進められ、工事上での諸手続については高槻市の強力なご支援の下、工事は極めて順調に推移し、且つ短期間に完工することが出来ました。お陰様で予定通り平成8年4月1日移転することができました。移転が無事完了するにあたり、ここに改めて森移転委員長をはじめ、工事全般に関与していただいた関係諸氏のご努力に厚く御礼申し上げます。

本移転事業を進めるにあたり、同窓会をはじめ、本学教職員、職員の皆さまから温かいご理解により多額のご寄付を頂き、有難うございました。また、未曾有の不況下にも拘わらず多くの企業から、藤原募金委員長（本学評議員）らのご努力により予定を上回る募金を達成できましたことに厚く御礼申し上げる次第です。

高槻新学舎の敷地は59,130㎡（17,891坪）あり、建物総延床面積128,641㎡（8,666坪）で研究棟の整備、拡充もいたしました。特に図書館、体育館、大学会館、クラブハウス等、学生のための施設の充実を図りました。

本学の近くには大阪医科大学、関西大学総合情報学部、平安女子短期大学をはじめ、JT（日本たばこ）など多くの企業研究所があり、また大阪大学にも近く、研究・教育の観点からも良い環境にあります。

新学舎は緑豊かな丘陵地にある素晴らしい教育環境に恵まれています。何分、長年住み慣れた高見ノ里からの移転により、通学、通勤にはいささか不便を感じておられる方もあることと思いますが、ご協力をお願いいたします。

今、新しい医療に携わる薬剤師の教育問題など薬学をめぐる環境は極めて重要な転換期を迎えています。この移転を契機に本学の教育、研究、運営に抜本的な改革を行い、新しい薬科大学に飛躍することを期待しております。



新キャンパスに移って

——高槻に生き世界に誇れる薬大に——

学 長 岡 源 郎

私たちの大阪薬大は、長い歴史と伝統が刻まれた松原市高見ノ里のキャンパスから高槻市阿武山台地の新しいキャンパスに移ってきました。同窓の一人としても感無量です。静かな、そして緑豊かな自然を背景に、眼下に高槻市を一望できるこの新しいキャンパスは、これからの教育・研究のさらなる発展のためにはこのうえない地と思っています。柔軟な発想と夢を持ったエネルギーに満ちた若者にとっては格好の躍動の舞台です。大阪薬大は新しい歴史への第一歩を踏み出したところです。

薬学は、薬を創る創薬科学から、薬と生体との相互作用から薬の作用と生体の機能を解き明かす薬学独自の生命科学、そして病気の予防、保健などに深いかかわりをもつ衛生薬学、さらには医療の現場で薬のスペシャリストとしてベストの選択ができるいわゆる臨床薬剤師を養成する医療薬学に至るまで、幅広く多彩で、奥行きが深いものです。そして創薬から医療薬学までの流れは、互いに薬に関する情報をもってフィードバックをかけながら密接な連携を保っています。したがって薬学の教育は、いずれの分野にも偏らず幅広い知識を修得させるために、ともすれば過密スケジュールによる詰め込み型教育になりがちです。胃袋が一杯では食欲はわいてきません。薬学教育にも腹八分目の“ゆとり”ある教育が必要ではないでしょうか。“ゆとり”ある教育、そこから生活の力になる“知恵”が生まれてきます。また知的好奇心も生まれてきます。個々の学生の資質と能力をそれぞれに開花させるためには、緊張感の中にも楽しく学習する環境造りが大切です。

いままで不十分であった医療薬学の充実が急務です。医療人としての薬剤師には、豊かな人間性、医療の倫理観、使命感と責任感などの涵養、そして医師、看護婦、患者さんたちとのコミュニケーション教育が求められています。私たちは「これからの薬剤師に何が求められているか」、「これからの薬学教育に何が望まれているか」をたえず考えながら、

“ゆとり”ある教育をめざした多様なカリキュラムの編成、コース別選択制などとともに授業内容（どの程度の範囲をどの程度のレベルで教育するか）を検討することも必要かもしれません。

大学は高度な教育のみならず研究の中心的役割を担っています。教育は研究によって支えられ、推進されています。大学が大学として生き残るためには研究の活性化が大切です。大学は創造の場です。幸い私たちは、広々とした環境抜群の新キャンパスに移ってきました。近くには医大あり、多くの薬学関連企業の研究所があります。これからの先見性のある、そして学際的な研究には、地の利を得ているといっていよいでしょう。どのような分野であれ、創造的活動は個人の夢や自由な発想が源になっています。研究者（教官）が忙しさに追い回されないよう“ゆとり”と研究に見合った柔軟な研究組織を作ることが大切です。これは大学院の充実にもつながることです。どのような分野でどのような成果をあげていくかが大学独自の特色を生んでいくことになりましょう。

21世紀は“脳の科学”の世紀といわれています。一見何の関係もないと思われていた免疫科学と神経科学がドッキングする時代です。脳の研究にも薬学が貢献するところは大きなものがあります。薬学（研究）の進歩なくして医学（医療）の進歩はないといっても過言ではありません。21世紀は「薬学」の時代です。「薬剤師が脚光を浴びる」時代です。大阪薬大は、開かれた薬大として、高槻に生き世界に誇れる薬大をめざして、医療の担い手として社会の期待に応じえる“人間性豊かな薬剤師”の養成、そして広い世界的視野と深い学識を備えた“創造性豊かな薬学研究者”の育成に努めたいと願っています。21世紀に向け、皆で力を合わせて前進しようではありませんか。



学生諸君に期待する

学生部長 望月伸三郎

アメリカの著名な社会未来学者、アルビン・トフラーは「教育は全て未来に対するイメージから生れる。」との書き出しで『A・トフラーの未来教育』という本を出している。

平成6年、財団法人日本青少年研究所が行った米国、台湾、日本の高校生対象のライフスタイル調査のなかで、

自分の将来を悲観的に見ている者は、……米国 3%、台湾 7%、日本 23%

先のことを考えず今を楽しもうとする者は、……米国 22%、台湾 13%、日本 52%

という結果について、日本の高校生は表面は明るくて優しいのだが、人間関係は希薄で干渉を嫌うとし、「困ったとき自分が犠牲になって助けようとし、相手が間違っているときに忠告するやさしさではなく、一切無干渉の、距離を隔てた冷酷な人間関係をもつ」と分析されている。

今の日本は高学歴志向の社会であり、義務教育のあとの高校進学率も96%をこえ、さらにそこを卒業した者の半分以上は大学等への進学を希望し受験している。

自分の将来に希望を持たず、今を楽しむだけのために大学に進学するなら、大学の意味がない。大学は、「何を学びたいか」、「何を研究したいか」を明確にし、それぞれの特性を生かして、才能を伸ばすところである。

『A・トフラーの未来教育』に投射話法テストの結果報告がある。それによると、未来志向を示す者と、現在と過去のことしか考えない者がおり、その

結果は次のように評価されている。

「未来志向の強い少年たちは成績も上の部であり、退屈で根気を要する仕事もしっかりやれば、これも将来の成功によって報いられると考える人間にとっては、苦労は何でもないらしい」。このことは、常に学生の興味を引く面白い授業をするための教員の努力も大切であるが、学生も勉強は退屈で根気のいることを自覚しなければならない。

学問は手間暇かけて学び積み重ねていくもので、受験勉強のやり方では通用しない。

受験の勉強は入り口の勉強であり、学生となると出口の勉強をすることになる。出口では世界の60億の人々が君達の門出を待っているのである。

そのためには、広い視野に立って世界に通用する教養と専門職としての深い知識が求められる。本学は薬学技術者養成を目的とする自然科学系の大学で、化学、生物学および物理学などを基礎として薬学の幅広い専門知識を修得できるように教育を行なっている。近くには同じ医療に携わる大阪医科大学、情報化社会の先端に行く関西大学総合情報学部もあり、女性の立場で新しい世界を開く平安女子短期大学などがあり、それらと連携を深めることで本学の一層の発展を願うものである。本学の学生諸君の素直さは他大学の学生から好感を持たれていると思うが、シャイというか、積極性に欠けるところがあるので、この点を若さで押し切る頑張りが必要である。新キャンパスで、学生諸君が21世紀を見据えて大きく羽ばたき、巣立って行くことを願っている。

新キャンパス記念式典・祝賀会挙行

5月25日(土)、この日は朝から雲一つない五月晴れで、阿武山を背にした新校舎は、朝日をまともに受け眩しく輝いていた。

午前9時30分頃には来賓が次々とお見えになり、講義・実習棟のエントランスホールで受付の後すぐに本学教員の案内による学内見学に参加される方が多かった。

午前10時30分、430名の来賓をお迎えして講堂において新キャンパス竣工記念式典が挙行された。



式典は、まず、本学コーラス部学生による学歌斉唱で始まった。続いて大村理事長の式辞があり、新キャンパスの建設にご尽力、ご支援をいただいた株式会社安井建築設計事務所、株式会社大林組、高槻市その他関係各位に対して謝辞が、またこの事業を進めるにあたり多額のご寄附をいただいた企業の方々、父兄会、同窓会に対して謝意が述べられた。

岡学長からは、高槻新キャンパスへの全面移転を機に、本学は更に教育・研究に励み、大きく飛躍したいとの挨拶があった。

次に、来賓の祝辞として、大阪府環境保健部長の高杉豊氏が大阪府知事の、日本私立大学協会副会長で京都外国語大学理事長でもある森田嘉一氏が同協会会長の、日本私立薬科大学協会副会長で神戸薬科大学理事長の金子太郎氏が同協会会長の、日本薬学会副会頭で日本大学薬学部教授の福田英臣氏が同学

会会頭の祝辞をそれぞれ代読され、日本薬剤師会会長の吉矢佑氏が祝辞を述べられた。

この後、各界からいただいた祝電の披露があり記念式典は厳粛のうちに終了した。

なお、式典会場は少し狭いので、向かいの教室にテレビを用意したが、そちらで式典の様子を見ていただいた来賓もあり申し訳ないことになった。

11時50分、会場を体育館に移して祝賀会が盛大に行われた。

大村理事長の挨拶に続いて、高槻市長の代理として同市助役の奥本務氏から、また大阪薬科大学同窓会会長の栗田稔氏から祝辞をいただいた。

次に、大阪高速鉄道株式会社社長で本学の理事である西村壯一氏の発声で乾杯が行われ、宴が始まった。

松原キャンパスのそれより一回り大きくなった新体育館は、本学関係者を交えた500余の人々で溢れていた。

あちこちの歓談の中で、来賓よりすばらしい大学ができたとの称賛の言葉をいただいた。

ひとしきりの歓談の後、本学の名誉教授である太田長世氏の発声で万歳三唱が行われた後、岡学長より挨拶があり、午後1時15分閉会となった。



新校舎建設に携わったの雑感

元建設委員長 栗原拓史

一昨年6月中旬の理事会において、建設委員長を命ぜられ、重大な責任をひしひしと感じる中でお引受して早や2年が経過しました。

堀田元学長を委員長とする新キャンパス建設計画委員会での素案を基に、基本設計を固め実施設計へと進めるために安井建築設計事務所や(株)大林組と大学との橋渡役をすることがその責務であると理解してまいりました。最近移転を経験された他大学薬学部の実地見学をさせて頂きながら勉強を積むことが仕事始めとなりました。なかでも昭和薬科大学、上田理事長ならびに新井学長(当時の建設委員長)には一方ならぬお世話になり、多くの情報とノウハウを頂きました。特に、本学の場合、時間的制約が極めて大きい中での作業であり、意見調整にどの程度の時間をかけるのかが建築の成否を握っていると云っても過言ではない状況下でのスタートでした。

7月に入り、安井設計との連日の打ち合わせの中で、当初予定されていた一研究室あたりの面積に疑問を感じました。個室と実験台の置かれた研究室しかなかった松原時代とは違い、多少贅沢かも知れないが、もう一部屋いわゆるゆとりの部屋(あえて多目的室と名付けました)が必要では……他大学を見学していた時から頭にはありましたが……と痛感しました。大村理事長に考えを説明し、一つの案として安井設計に提案するお許しを得、その後の理事会において認められ、増設されることになったのはご承知の通りです。

その後、平成6年12月15日、ほぼ予定通りに地鎮祭が挙行われ、大林組による施行工事が開始されました。まだ完全に基本設計が固まっていない中で、実施設計、施工工事を平行して進めざるを得ない大変な状況でありました。さらには、翌年1月17日の阪神大震災という空前絶後の大災害を目のあたりにしながら、大林組現場所長の一条乱れぬ統率力と行動力によって、全工事期間無事故無災害で見事なまでに期日通りに工事を完了させることができました。この建設の仕事をさせて頂いた中で、この二点が私の記憶から恐らく消えることのない思い出となりそうです。

今、振り返ればいろいろなことがございましたが、

またと経験することのできない貴重な機会を与えて頂きました大村理事長と、ご協力頂いた全教職員の皆様にこの場をお借りして厚く感謝とお礼を申し上げる次第です。

移転の経緯について

元移転委員長 森逸男

平成7年5月29日発足の移転委員会は、平成8年4月開校に向け、幾回かの移転委員会審議を重ね、数回にわたる移転計画について説明会を実施したうえ、最終移転説明会を1月9日教職員全員に、また2月20日には学生代表者、クラブ代表者にそれぞれ実施させて頂きました。

先の学報33号に記載したスケジュールに基づいて本格的な移転業務が移転業者であるフットワーク・エクスプレスならびにアートコーポレーションにより3月6日より始められ、3月23日に完了しました。次いで入試関連の事務部門の移転を3月27日に終え、ほぼ移転を完了させることができました。なお薬剤師国家試験が3月29日、30日の両日、松原学舎で行なわれたので、その事務関連分野の移転完了は4月3日となりました。その間、危険物、ボンベ、クールボックス、中央機器類、RI施設関連物品、図書館蔵書、一部の薬用植物など慎重を要する重要物の移転も多少のトラブルはあったかと思われませんが、大事故もなく無事予定どおり完了させることができました。年度末の諸行事、薬剤師国家試験への会場提供、ならびに限られた期日、予算内で全学移転を無事に行えたことは、移転委員を始め、全教職員、学生ならびに移転業者、高槻および松原両市の近隣住民各位のご協力の賜物であり、厚く御礼申し上げます。なお4月1日には長年住み慣れた松原学舎の体育館で近隣住民の顔なじみの方々とのお別れパーティーを、また5月25日には新高槻キャンパスで竣工記念式典を挙げるなど、一応の諸行事を恙なく完了することができましたこと、合せて関係各位に厚く御礼を申し上げます。なお、移転委員会は6月末日をもって無事解散いたしました。

施設紹介

■ 講義・実習室

講義・実習棟は、鉄筋コンクリート4階建、延べ面積7,525m²で、1～2階に講義室、3～4階に実習室が配置されています。

1階には、346席ある講堂が1室、60人単位の小講義室が6室あり、1階玄関のエントランスホール近くには男子・女子学生用のロッカー室が配備されています。講堂は最新の視聴覚設備が完備しており、講義はもとより特別講演会などにも利用され、本学におけるメインホールの役割を果たしています。小講義室は語学、セミナー、大学院講義など小人数単位できめ細かい教育ができるように配慮されています。

2階には、240席の講義室1室と165席の中講義室6室が中央のロビー（104m²）を開むように配置されています。遠く大阪平野が一望できる広く明るいロビーは、学生の憩いの場であり、学生と教員との

親密な対話の場となっています。

3～4階の実習室は、実習内容により4つの系に分けられ、薬剤・薬理系、理化学・衛生系実習室が3階に、有機・生薬系、生物系実習室が4階にそれぞれ配置されています。各系の実習室は、中央の準備室（93m²）を挟んで2室（各室252m²）に分けられており、1室につき70～80人の実習が可能で、年間を通じて各学年の実習が効率良く行なえるようになっています。また、3階の薬剤・薬理系実習室には調剤実習室が、理化学・衛生系実習室にはR I実習室が、4階の有機・生薬系実習室には生薬標本室がそれぞれに隣接して設けられており、専門的な実習に役立っています。さらに、4階にある情報科学解析センターや情報科学演習室には、最新のコンピュータ設備が導入されており、高度情報化社会にも十分に対応できる教育設備が充実しています。

このような種々の設備を備えた講義・実習室を有効に活用することにより、さらに充実した教育が行われるものと大いに期待されています。



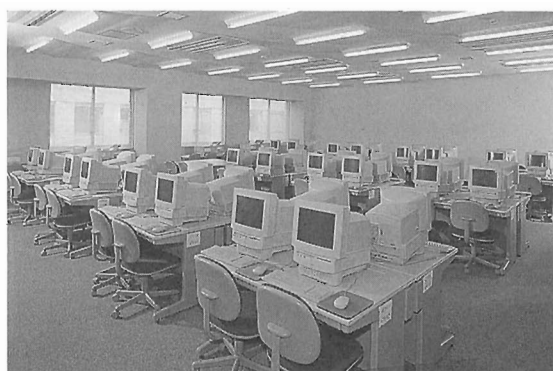
講義・実習棟玄関



講 堂



調 剤 実 習 室



情報科学演習室

■ 図書館

図書館は、本部・図書館棟の3階4階に位置し、専門書を含めて、約60,000冊の蔵書が収められています。周囲への眺望もひらけ、明るく広々とした環境で閲覧できます。

学生の学習のためには閲覧テーブルのほか、個人用のキャレルデスクも備えられています。また、閲覧室以外にグループ学習室なども配置され、レポート作成や少人数での勉学に利用できるよう配慮されています。

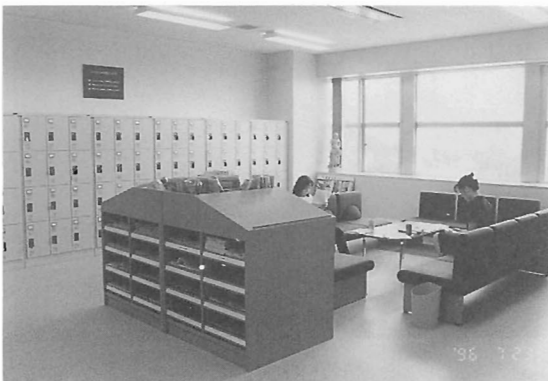
3階

・ブラウジングコーナー

本部・図書館棟のエレベーターを3階で降りると目の前がブラウジングコーナーになります。新聞などが多数おかれ、学生の憩いの場として利用されています。

・グループ学習室

学生がグループで気軽に自習したり、レポートなどを作成するのに利用されています。



・第1閲覧室

図書館の入口の入退館システムを通るとカウンター、新着図書展示架、新着雑誌コーナーが設けられています。その奥には学術雑誌が配架されています。配架されている雑誌のバックナンバーは、1990年以降のものであります。

・コピーコーナー

複写機が2台置かれ、教職員はカードで、学生はコインで利用できます。

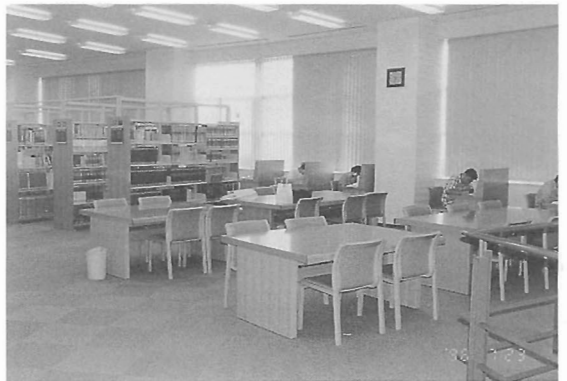
4階

・第2閲覧室

一般図書、教養雑誌、業界雑誌、文庫本、新書を配架し、専門分野以外の広い知識と教養をも身につけてもらえるように配慮されています。

・第3閲覧室

専門分野の和洋書を配架しています。個人用閲覧席もあり、学生の学習やレポート作成の場としても活用されています。

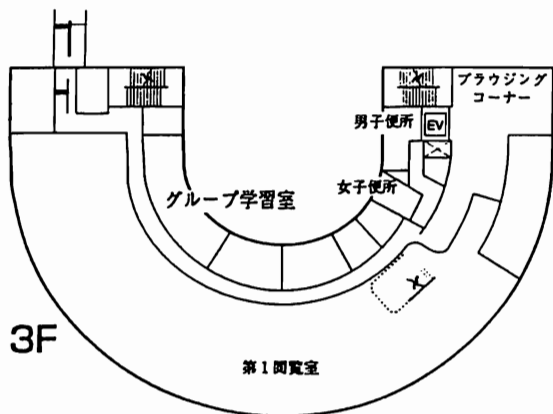


・第4閲覧室

1989年以前の和洋製本雑誌と年代の古い専門図書、教養図書、法規集、年史類を移動式書架に収納しています。

・ニューメディア情報室

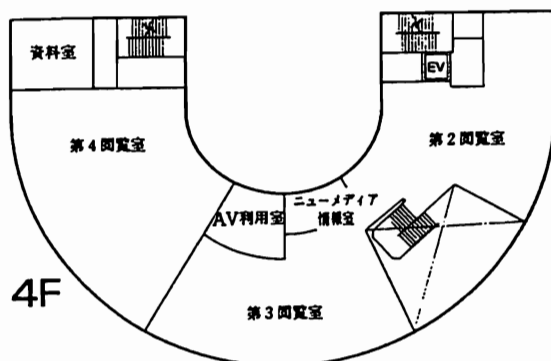
オンライン情報検索やCD-ROM検索ができ



ます。

・AV利用室

専門分野のビデオや映画のビデオ、語学学習用カセットが多数あり、視聴もできます。



■ 薬用植物園

薬用植物園はキャンパスの東側に位置し、管理棟区域と見本園区域からなる。1,000種を超える植物が丹念に育てられ、薬用植物学、生薬学、生薬化学などの学習や市民の見学に供されている。また、セリ科、マメ科、キンポウゲ科、シソ科植物などが多く植栽され、生薬学的研究に供されている。他の薬用植物園などとの共同研究を重視し、その役割を果たすと共に、研究者の交流を実現している。

薬用植物園の大きさ

本薬用植物園の広さ：1,917.43m²（道路、石垣、斜面を含めると2,350.27m²）。

管理棟区域（820.89m²）と見本園区域（1,096.54m²）からなっている。管理棟区域には温室（141.75m²）、管理棟（32.40m²）、資材農機具収納棟（72.00m²）、ビニールハウス（65.00m²）が設置されている。

施設設備とその特徴（保有している薬用植物の種類と特徴）

1. 約300種の重要薬用植物が良い状態で植栽されている。
2. 学生が落ち着いてスケッチできるように、課題植物が配置されている。

3. 春から夏にかけて開花するものが多く集められており、薬用植物学の講義の進行に合うように工夫されている。
4. 全体では1,000種を超える植物が植栽されており、多くの科にわたっている。科の植物学的特徴を理解するのに役立っている。
5. 研究に供した植物と現在供している植物を標本として保有している（セリ科植物、ナス科植物、カンゾウ属植物など）。
6. 苗床が整備され、苗からの植物の成長を観察できる。
7. 立地条件を克服するために、様々な工夫を試みている。

今後の課題

1. 楽しいラベルの充実。
2. 薬用植物園を利用して学ぶ薬用植物学のテキストの作成。

■ 大学会館

地上2階建てで、旧学生会館より1.4倍の床面積を持つ。1階には、食堂、喫茶室、談話コーナーがあり、総席数は498である。食堂からの眺望は、南東方向に開けており、グラウンド、高槻市街地を見渡すことができ、明るく気持の良い空間となっている。また、ブックセンターが新しく設けられ、教科

書、書籍、文具、雑貨が市価よりも安く販売され、コピーサービスも行われている。2階には、放送室、セミナー室、アルバム委員会室、執行部室、和室が設けられ、クラブ活動のための小ホールが完備されている。このように学生会館は多目的に利用できるよう工夫され、学生生活の拠点となっている。

■ 学生クラブハウス

学生クラブハウスは、旧松原キャンパスの建物に比べて1.6倍の面積があり、地上3階建てで部屋数は36室である。1階にシャワー室、2階と3階にはセミナー室が設けられている。ミーティングや、他大学との交流の場として使うことができる。

しかし、セミナー室以外には冷暖房設備がないので、特に冬季の使用には問題が残る。

■ 体育館

新体育館は、旧松原キャンパスの1.5倍の床面積を持つ。アリーナの天井は高く、床面に近く設けられた小窓には、風通しの良い体育館という学生の要望が採り入れられている。

床の材質にはカバ桜が使用されているので明るく美しい。バスケットボールの公式コートが2面取れる。ステージは、学校行事での使用を考慮して、ユニット式になっている。

1階には、器具庫、更衣室、シャワー室のほかトレーニングルームがあり、学生のコンディションの調整に役立っている。2階には、2.4倍となった柔剣道場のほか、体育教員室、ミーティングルームがある。柔道場の畳を取り去れば剣道場が2面、剣道場に畳を敷けば柔道場が2面取れるように工夫が凝らされている。

■ グラウンドとテニスコート

新キャンパスのグラウンドは、サッカーとラグビーの公式試合を行う広さを持つが、地形の関係もあり、旧キャンパスの55%しか割り当てられていない。したがって公式野球部の練習には不自由さが残る。テニスコートは4面あるので、軟式(ソフトテニス)、硬式テニス部の活動には十分であるが、同好会活動でテニスを希望するような場合は、クラブの月間予定表に基づいて空き時間を活用するようにしている。

■ 弓道場、音楽練習場

体育館の北側には弓道場と防音、冷房設備のある音楽練習室がある。弓道場は、以前のものに比べて設備が充実しているので、弓道は人気スポーツとなっている。音楽練習室の防音設備は完璧で近所からの苦情はない。

■ 自転車駐輪場

校地が高台にあるため、当初100台程度分の駐輪場を用意していたが、学生の自転車通学が多くなったので、駐輪場を増設し(約2倍になった)、現在はほぼ必要な駐輪スペースを確保している。

■ 中央広場

講義・実習棟とグラウンドとの間には、南北130m、東西65m、総面積にして約5,700m²に及ぶ広場がある。時計台を中心に煉瓦が敷き詰められ、その周辺に芝生の広場がある。この広い空間は学生、教職員の憩いの場であり、気持ちにゆとりを与える効果をもつ。

■ 学生ロッカー室

講義・実習棟の1階には男子と女子のロッカー室があり、それぞれ402個、930個のロッカーが配置されており、利用希望学生は、学生課で手続きをすれば使用することができる。

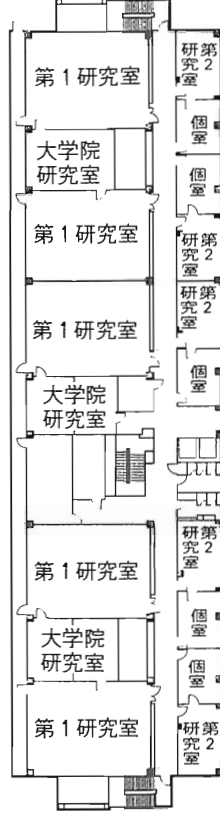
新キャンパスでは、充実した学生生活を過ごすための新しい工夫が随所に凝らされ、快適なキャンパスライフが約束されている。しかし、駅からキャンパスまでのアクセスの不便さには課題を残している。

■ 研究棟

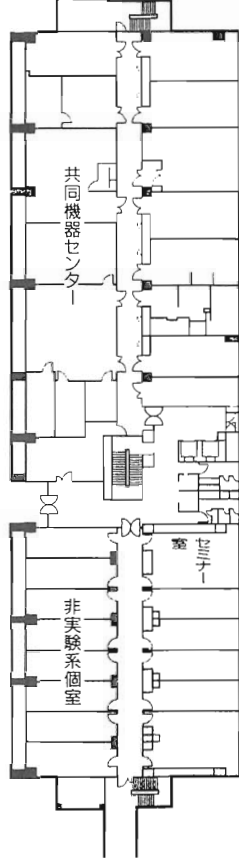
研究棟は、建築面積1,703m²(515坪)、延床面積9,946m²(3009坪)であり、地下1階、地上6階および塔屋からなり、地下には実験動物センターおよびRIセンターがある。地上1階には共同機器センターおよび非実験系教員の個室などが配置されている。2～6階には各研究室が配置され、各階には最大5つの研究室(教室)が設置可能である。

実験動物センターは松原キャンパスでは613m²であったが、高槻では866m²とほぼ4割増加し、感染

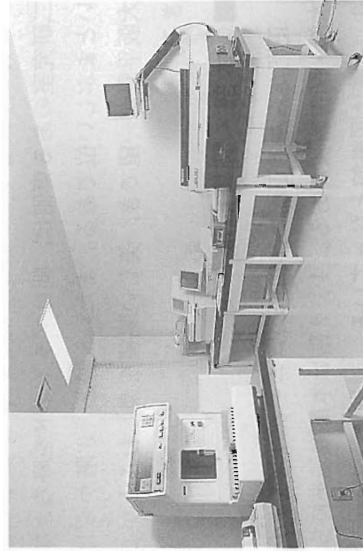
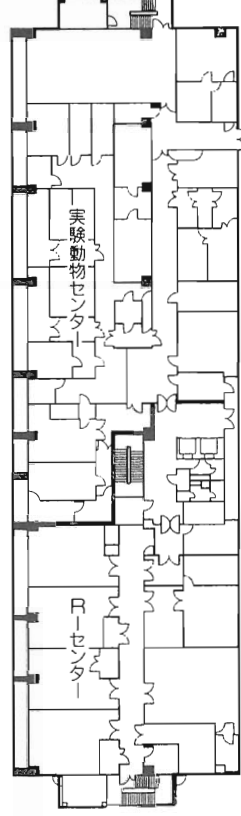
2F~6F



1F

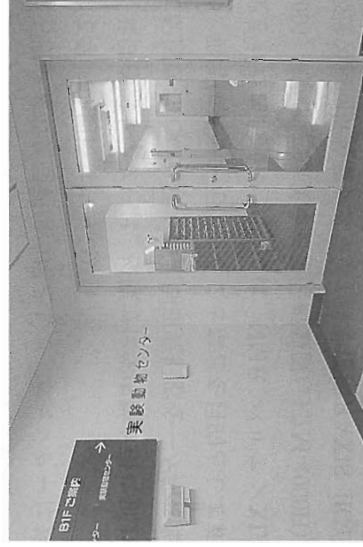


B1F



RI センター測定室

動物実験室、イス、ウサギ、モルモット、ラット、マウスなどの動物飼育室、実験室、管理室を備えている。本センターの750m²分においては高性能フィルターを通した空気を供給し、温度を24±1℃、湿度55±10%、換気回数を15/HR（部屋によっては10回/HR、中性能フィルターを通して空気を供給）に保つことによって、Specific Pathogen Free (SPF) 動物の飼育・実験を可能にしており、薬学の教育・



実験動物センター入口 (B1F)

研究に必須の動物実験が安全に行え、かつ条件の整った実験データが得られるように設計されている。動物実験は、適正な動物、適正な実験計画、適正な実験法、適正な施設で行われてはじめて適正な結果が得られるものであり、国際調和の観点から医薬品開発における動物実験法に関するバリデーションの設定が議論されていることを考え合わせると、本施設は大学における薬学研究の時代を先取りした最新施

設といえる。また、本センターは本学教員、学生および地域住民に対するバイオハザード対策にも十分な注意を払っている。本センターは本学が最も力を入れている施設の一つであり、日本の薬系大学の動物実験施設としては類を見ない高精度の条件設定が行われている。これらの施設を駆使して秀れた研究成果が挙がることを期待したい。

RIセンターは松原キャンパスでは232m²と手狭であったが、高槻キャンパスでは倍増し、約500m²が割り当てられた。管理区域内には実験室(5)、共同機器室、測定室、RI貯蔵室、廃棄物保管室、管理室などを備えている。5つある実験室のうちの1つでは動物飼育が可能となっている。放射線測定機器としては、ゲルマニウム半導体検出器をはじめ、通常のトレーサー実験に欠かせない液体シンチレーションカウンターやガンマカウンター等が装備されている。薬学における放射性同位元素の主な利用は、トレーサー実験と診断用放射性医薬品の開発に大別されるが、より安全でより有効な医薬品の創製および医薬品の適正使用に向けて、研究目的や方法の異なる研究者の共同利用の場として、本センターに対する学内の期待は大きい。

共同機器センターは、松原では学内数ヶ所に別れて配置されていた種々の共同研究機器を一ヶ所に集め、管理体制を一元化することなどを目的として新設された。同センターには、NMR(バリアンXL-300)、高性能二重集束質量分析装置(日立M-4000H)、高速X線回折装置システム(理学電機RAXIS IIC)、電子顕微鏡(日立H-600)、シークエンシャル型高周波誘導結合プラズマ分析装置(島津ICPV-1000S)、タンパク質構造解析システム、遺伝子解析システム、エネルギー分散型蛍光X線分析装置ウルトラトレースシステム(理学電機-ケベックス)、円二色性分散計(日本分光J-500A)、元素分析システム、フーリエ変換赤外分光計(Parkin Ermer1720X)、その他通常の測定機器が設置されている。ただし、なかには購入後10年以上経過し、更新が望まれるものもある。

共同施設に関しては、管理のしやすさと利用の便利さとは相反する場合もあり、このバランスをどうとるかが、しばしば問題となるところである。現時点では管理組織などが未定になっており、早急な決定が待たれる。なお、特定の研究室しか使わない機器や低温室のように研究室との距離が離れると不便になる施設に関しては、必ずしも中央集中化する必要がないことを考慮して、研究棟の各階(2階は除く)にはサテライト共同機器室が設けられた。現時点では5階を除く各サテライト共同機器室は次のように利用されている。3階：低温室と培養室、4階：スライドメーカーとレタリング機器設置、6階：200 MHz の NMR (Varian Gemini 200FT) 設置。

各研究室は個室、第一研究室、第二研究室および大学院研究室からなり、合計面積は約190m²である。標準装備として、実験台およびドラフトが新規に購入された。空調に関しては、個室および第二研究室は個別の冷暖房、他は集中冷暖房方式になっている。4月以降研究室を使用して感じることは、室内が極めて明るく快適であることである。特に、個室と第二研究室のある東側は、朝はブラインドを降ろさないとまぶしい位である。また、5階と、6階からは大阪平野が一望でき、美しい眺望を楽しむことができる。

■ 本部・図書館棟

正門から左手正面に半円形のユニークな形をした本部・図書館棟がある。1、2階は本部機能を持ち、3、4階は図書館となっている。

1階には学生サービス部門が集められていて、白い大理石貼りのエントランスに入ると学生課、教務課、就職課、保健室などがあり、2階には、総務課、施設課、経理課の事務部門と会議室などがある。

建物は南に面していて、大変明るく、学生課と教務課、また、総務課、施設課、経理課は大きな1つの部屋となっていて、開放的である。建物の両サイドは渡り廊下で研究棟、講義・実習棟につながり、機能的に作られている。

環境の保全について

環境保全委員長 松永春洋

先端技術を駆使した産業の発展は人間の即物的意識を助長し、人々は高い生活水準を入手したものの、その代償にオゾン層の破壊、大気中の二酸化炭素濃度の増大による地球の温暖化を招き、森林や土地の乱開発は河川、湖沼、海水の汚染などの重大事態を引き起した。自然の営みに背を向け、他の生きものとの共生を無視した人間の傲慢さによる所産である。

宇宙にまで及ぶ自然環境破壊の進行が指摘されて以来、地球の環境保護に関する第二回国際会議が一昨年京都国際会議場で開催され、先進国と発展途上国間で対処する姿勢に差がみられるものの、世界規模で環境保全対策に取り組むことになった。我国では30年ほど前から産業排水や廃棄物の取扱い・処理に関する法律や規程が制定され、環境保全対策が講じられつつあるが、国民の認識は今一つ高揚せず、憂慮すべき問題である。本学では松原学舎にRI実験施設、廃水処理槽が整備された時点でRI施設運営と排水処理の両委員会を、また実験動物センターが完備すると共に実験動物センター長を中心とするセンター運営、動物実験、組換えDNA実験安全、バイオハザード予防などの委員会を組織して、規制に対処してきた。

しかしその間、大学の研究機関や医療機関を含めた新たな産業・生活公害事件が多発したため、厚生省や地方自治体は事故を未然に防止し、かつ事態に適切、迅速に対処するため、環境問題の発生源となる有害物質や廃棄物の管理と処理に関する法規や省令、条令を相次いで改正してきた。文部省は平成4年、「大学における廃棄物処理の手引き」に地球環境の保全を盛り込んだ改訂版を発行した。各大学はその内容に副って管理体制を改革し、大学周辺部にまで配慮した総合的な環境保全委員会を設置して教育・研究公害や廃棄物取扱いに関する義務と責任体制を固めるに至ったのである。

本学では平成6年から、今迄慣行としてきた研究棟各階の教員による一年ごとの持ち回り排水処理委

員会制度を発展的に解消して下記の新組織を編成し、環境保全に積極的に取り組むことになった。すなわち、

(1)学内環境保全に関する指導責任者を学長とする。学長はRI施設運営、動物実験、組換えDNA実験安全、バイオハザード予防委員会の各委員長、実験動物センター長及び有機系教室責任者1名(旧排水処理委員長)に環境保全委員を委嘱し、施設課長、係長の2名を加えて任期2年の環境保全委員会を設置する。(2)上記委員会は互選により正副委員長を選出する。又、委員会の中に生活系、実験系(ケムハザード予防業務を含む)の両廃棄物専門部会を設置し、環境保全委員を両専門部会に振分けて兼担させると共に、学内教職員中から各3名の専門部会委員を補充する。(3)専門部会は、環境保全委員会の要請に基づいて各専門分野に必要な保全の実務を担当する。

環境保全委員会は大学の高槻キャンパスへの移転を控えて新事態に備えるため、専門部会委員を加えた拡大委員会を開催して協議を重ね、旧学舎での廃棄物処理、新学舎へ移転後の排水・廃棄物処理、遺伝子組換え実験に関する学内規則の作成と実施の徹底、実験廃液回収設備の設置、高槻市や高槻消防本部への届出など、山積した業務を消化した。消防本部では学内の実験施設に鑑み、一研究室当り一名の危険物取扱主任者を置くよう指導された。環境保全委員会はこの勧告を学長に報告するとともに、危険物の取扱い及び危険物倉庫の管理と運営を消防法に基づいて学内防火組織の業務に移す必要があることを文書で具申した。移転後の5月末には高槻市下水道部による実験排水の抜き取り採取があり、後日、検査結果良好との報告を得た。また6月中旬には、同下水道部による各研究室、実習室の排水状況、実験廃液の回収設備、排水処理槽の機能と稼動状態について初回の立入り査察を受けた。消防署による危険物倉庫の査察は未了で、今後2年間は頻繁な立入り査察を申し渡されていることもあり、実験排ガス、学内衛生、構内の環境美化などについても配慮して保全に努める所存である。



就職部長就任にあたって

就職部長 森 逸 男

平成8年4月より、就職部長を担当することになり、本当に責任の重大さを痛感しております。本年の就職戦線は昨年にも増して激戦、早期化が予想されることより、早速4月4日および5日の両日にわたり薬業界への挨拶とお願いをし、未だ新学期も始まらない4月6～10日には、4年次在學生（男子97名、女子200名）の就職個人面談をさせて頂きました。この個人面談は、以前私が平成2年に就職部長に就任した時より始め、以後歴代の就職部長により行われてきており、未熟ではありますが、先日来訪問した製薬企業の感触などを交えながら、個人面談で就職進路希望調査を行い、下記表1の就職希望状況を纏めることができました。なお、本年3月卒業生の進路状況（平成8年3月30日現在）は、表2に

見られますように、前部長稲森教授の精力的なご指導とご努力により、ほぼ100%就職という満足し得る結果を得ておりますが、本年度卒業生の特徴として卒業後、さらに国家試験合格発表後に就職活動を開始するケースが目立って参りました。一方、本年度の就職戦線は、連日の新聞、テレビなどのマスコミ報道で幾分明るい兆しが有りやと報道されてはいますが、薬業界は薬価切り下げなどの影響をモロに受け、「氷河期」や「超氷河期」なる言葉では表し得ない現状であることを痛感いたします。個人面談での相談内容などを見ますと、企業への希望とは別に、病院薬剤師を始めとする医療業務への就職希望者の激増が本年度の特徴の一つかと思われれます。病院などへの就職は欠員補充に止まることより、大変

表1 平成8年度卒業予定者 進路希望調査状況

(平成8年4月30日現在)

区 分	男子	%	女子	%	計	%
薬業関連企業（営業）	26	26.8	22	11.0	48	16.2
（内勤）	4	4.1	27	13.5	31	10.4
病 院・診 療 所	8	8.3	73	36.5	81	27.3
研 修 生	6	6.2	19	9.5	25	8.4
薬 局・小 売	4	4.1	11	5.5	15	5.1
公 務 員	4	4.1	22	11.0	26	8.7
大 学 院・研 究 生	24	24.8	10	5.0	34	11.4
自 家 業・そ の 他	21	21.6	16	8.0	37	12.5
計	97	100.0	200	100.0	297	100.0

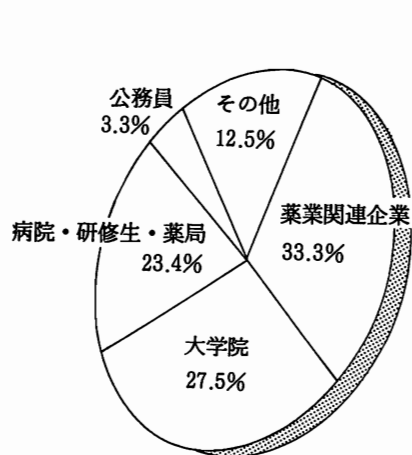
な激戦が予想され、一大覚悟が必要です。何れにしても、就職は人生を左右する一因子であります。近年「就職率」が大学の入学時の偏差値と同じように、大学の評価基準と見られるようになって参りました。一人でも多くの学生が希望する先へ就職がで

きるよう努力したいと思います。何分にも相手があること、就職に関し学生諸君自らの努力は勿論のこと、薬業界、病院診療所関連、医薬品販売関連の皆様方、さらには教職員およびご父兄の方々など今一層のご協力、ご援助をお願いする次第です。

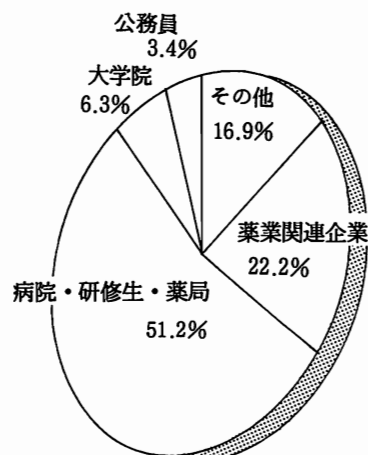
表2 平成7年度卒業生（第43期生）進路状況

(平成8年3月30日現在)

区 分	男子	%	女子	%	計	%
薬業関連企業（営業）	28	23.3	16	7.7	44	13.4
（内勤）	12	10.0	30	14.5	42	12.8
病院・診療所	10	8.4	71	34.3	81	24.8
研修生	5	4.2	12	5.8	17	5.2
薬局・小売	13	10.8	23	11.1	36	11.0
公務員	4	3.3	7	3.4	11	3.4
教職員			4	1.9	4	1.2
大学院・研究生	33	27.5	13	6.3	46	14.1
自家業・その他	15	12.5	31	15.0	46	14.1
合 計	120	100.0	207	100.0	327	100.0



男子 (120名)



女子 (207名)

就職部だより

■ 「平成7年度卒業者(第43期生)進路状況」について
 「平成不況からの緩やかな回復局面」といわれながらも、薬学生を取り巻く就職環境は依然として厳しい状況下にあります。全般的に、バブル経済崩壊による不況で、就職活動の早期化とともに各企業とも「採用したい人材」が「量」より「質」重視となり、女子の内勤領域(研究・開発、学術、品質管理、管理薬剤師)への就職は従来にも増して狭き門となりました。また、病院関連では、病院薬剤師の求人減とその高い定着率により就職はますます厳しい状況にあります。一方、調剤薬局、ドラッグストアなどへの求人数の増加が見られ、現実の学生の希望とのギャップがあり、ブランド志向優先からの脱却が必要です。

平成7年度卒業者(第43期生)(男120名、女207名計327名)の進路・就職先一覧の明細を表に示しました。なお、表中()内には第20期本学大学院博士前期課程修了生(修士)(男31名、女8名計39名)の就職動向を表にしました。本年度の特徴として 1) 薬学関連企業への女子の希望者数72名に対し、決定者数は46名(64%)であり、企業希望女子学生の苦勞が推測されます。2) 病院・研修生などの医療機関への就職は、100名の希望に対し83名に止まりました。3) 薬局・小売業などでの男子、女子合計の希望者35名に対し、36名の決定者があり、この領域では売手市場です。4) 公務員への就職はほぼ希望どおり、また大学院(研究生を含む)においては希望者55名に対し46名の決定者になりました。5) その他の39名の中には薬剤師免許取得を第一義と考える学生が含まれ、本年の一大特徴かと思われまます。なお、大学院生(修了生39名)の就職は各担当教員の指導のもと、ほぼ100%の就職率となっていますが、職種内容の多様化が現れ、「量」より「質」の面で厳しくなっています。

■ 「平成8年度卒業予定者(第44期生)の進路希望調査状況」について

平成8年度の就職状況は昨年にも増して深刻で、企業サイドは、より優れた、比較的数少ない、質の良い人材を確保するためか、就職戦線の早期化が見られるようです。4月より新就職部長のもと、4年次在学学生(男子97名、女子200名)を対象に4月初めに就職個人面談を実施し、就職希望状況が把握できました(先の「就職部長就任にあたって」の表1参照)。本年度の就職活動は、すでに7月より企業訪問の開始とともに活発化していますが、昨年度にも増して深刻な就職競争になっております。本年度の就職希望調査結果の特徴として、一般的に病院薬剤師を始め、医療業務への就職希望者が昨年にも増して多くなっておりますが、一方病院の求人は欠員補充の範囲内に止まることを考えますと、本年度の求人内容とこれら在学学生の希望との間には大きなギャップがあり、今後の就職活動の困難さが痛感されます。

平成7年度卒業者(第43期生)

進路・就職先一覧

(平成8年3月30日現在)

「薬学関連企業・その他」

	計	男子		女子	
		内勤	営業	内勤	営業
1 旭化成工業(株)	1				1
2 天藤製薬(株)	(2)	(2)			
3 (株)アラクス	1			1	
4 上野製薬(株)	3			3	
5 宇治製薬(株)	(1)	(1)			
6 エーザイ(株)	1				1
7 大塚製薬(株)	2				2
8 大峰堂薬品工業(株)	1	1			
9 小野薬品工業(株)	1			1	
10 (株)カイゲン	1		1		
11 鐘紡(株)	(2)	(2)			
12 環境バイリス	1	1			
13 喜多薬品(株)	(1)	(1)			
14 協和発酵工業(株)	(1)	(1)			

	計	男子		女子		計	男子		女子	
		内勤	営業	内勤	営業		内勤	営業	内勤	営業
15 共和薬品工業(株)	(1)			(1)		53 日本ペーリソグーインゲルハイム(株)	1(1)	(1) 1		
16 キリンビール(株)	1			1		54 日本メジフィジックス(株)	2	1	1	
17 金陽製薬(株)	1	1				55 日本薬品開発(株)	(1)	(1)		
18 グラクソ三共(株)	1			1		56 萬有製薬(株)	2	1	1	
19 国際試薬(株)	(1)	(1)				57 菱山製薬販売(株)	1		1	
20 小太郎漢方製薬(株)	(1)	(1)				58 藤沢薬品工業(株)	3	2	1	
21 劑盛堂薬品(株)	1			1		59 藤本製薬(株)	2(2)	(2)	2	
22 (株)三笑堂	1			1		60 扶桑薬品工業(株)	3(1)	1(1) 2		
23 (株)三星堂	2	2				61 平成薬品(株)	1	1		
24 千寿製薬(株)	1	1				62 堀井薬品工業(株)	1		1	
25 シオエ製薬(株)	1			1		63 丸石製薬(株)	1(3)	1(3)		
26 塩野義製薬(株)	4(1)	2(1)	1	1		64 丸善製薬(株)	1		1	
27 新日本薬品(株)	1(1)	1(1)				65 (株)マルホ	1		1	
28 新和物産(株)	1(1)		1(1)			66 三国製薬工業(株)	1		1	
29 住友製薬(株)	1		1			67 (株)ミドリ十字	1		1	
30 ゼネカ薬品(株)	(1)	(1)				68 明治製菓(株)	1	1		
31 千寿製薬(株)	(1)	(1)				69 持田製薬(株)	1	1		
32 第一製薬(株)	1		1			70 山之内製薬(株)	2	1	1	
33 大正薬品工業(株)	1	1				71 山発産業(株)	1	1		
34 大同薬品工業(株)	1		1			72 ヤンセン協和(株)	2		2	
35 大日本製薬(株)	1(1)	1(1)				73 米田薬品(株)	(1)		(1)	
36 大和化成(株)	(1)	(1)				74 ロート製薬(株)	1(1)		1(1)	
37 武田薬品工業(株)	1		1							
38 田辺製薬(株)	1		1			1 (株)全国石油協会	2		2	
39 中外製薬(株)	3	2	1			合計	86(28)	12(21) 28(3)	30(4) 16	
40 (株)ツムラ	1	1								
41 鶴原製薬(株)	1		1			「病院」				
42 東京田辺製薬(株)	4	3	1			計		男子	女子	
43 東和薬品(株)	1	1				1 愛知県厚生農業協同組合病院	1	1		
44 富山化学工業(株)	(1)	(1)				2 藍野(恒昭会)病院	1		1	
45 日研化学(株)	2	1	1			3 藍野花園(恒昭会)病院	1		1	
46 日清製薬(株)	1	1				4 青山第二(五月会)病院	1		1	
47 日本医薬品工業(株)	1	1				5 あびこ病院	1		1	
48 日本イーライリリー(株)	3	2	1			6 尼崎中央(中央会)病院	1	1		
49 日本シェーリング(株)	1	1				7 石切生喜(藤井会)病院	1		1	
50 日本新薬(株)	1	1				8 泉尾(大阪府済生会)病院	1		1	
51 日本粉末薬品(株)	1		1			9 宇治川(仁心会)病院	1		1	
52 日本ヘキスト・マリオン・セル(株)	1		1			10 大阪回生(互恵会)病院	1		1	

	計	男子	女子		計	男子	女子
11 大阪脳神経外科病院	1		1	50 羽原病院	1		1
12 近江温泉(清惠会)病院	2	1	1	51 馬場病院	1		1
13 岡部外科病院	1		1	52 原病院	1		1
14 岡村一心堂病院	1		1	53 阪堺(いずみ会)病院	2		2
15 音羽(洛和会)病院	1	1		54 阪和(錦秀会)病院	2		2
16 オリオノ和泉(守田会)病院	1		1	55 東戸塚記念病院	1		1
17 金井病院	1		1	56 日高総合病院	(1)	(1)	
18 川越病院	1		1	57 平井病院	2		2
19 河内総合(三世会)病院	2	1	1	58 福岡記念病院	1		1
20 関西医科大学附属病院	1		1	59 福德医学会(福德医学会)病院	2		2
21 協立温泉(協和会)病院	1		1	60 藤田(回生会)病院	1		1
22 下松記念病院	1		1	61 ベルランド総合(生長会)病院	3		3
23 栗林病院	1	1		62 水口病院	1	1	
24 神戸アドベンチスト病院	1		1	63 村田病院	1		1
25 小松(協仁会)病院	1		1	64 守口敬任会病院	1		1
26 咲花病院	1		1	65 山紀会病院	1		1
27 島田(永広会)病院	1		1	66 行岡(行岡医学研究会)病院	1		1
28 重井病院	1		1	67 吉田(平和会)病院	1	1	
29 住友病院	2		2	68 淀井病院	2		2
30 住友別子病院	1		1	69 淀川キリスト教病院	1		1
31 成徳記念(和仁会)病院	1		1	合計	81(1)	10(1)	71
32 蘇生会総合病院	1		1				
33 第一病院	2		2	「研修生」			
34 大同病院	1		1		計	男子	女子
35 大和(ダイワ会)病院	1	1		1 大阪大学医学部附属病院	7	2	5
36 高井(高滑会)病院	1		1	2 関西医科大学附属病院	1		1
37 田北(田北会)病院	1		1	3 京都大学医学部附属病院	3(1)	1(1)	2
38 田辺中央(研医学会)病院	1		1	4 高知医科大学医学部附属病院	1	1	
39 中国労災病院	1		1	5 滋賀医科大学医学部附属病院	1		1
40 天理よろづ相談所病院	1		1	6 名古屋大学医学部附属病院	1		1
41 東和会病院	2		2	7 浜松医科大学医学部附属病院	1	1	
42 徳洲会病院	1		1	8 広島大学医学部附属病院	1		1
43 中江(愛晋会)病院	1		1	9 和歌山県立医科大学附属病院	1		1
44 中谷病院	1		1	合計	17(1)	5(1)	12
45 奈良厚生会(厚生会)病院	1		1				
46 西京都病院	1		1	「薬局・小売」			
47 西出(尚生会)病院	2		2		計	男子	女子
48 日本赤十字社和歌山医療センター	1		1	1 憐育星会	1	1	
49 野田記念病院	1		1	2 今津調剤薬局	1		1

	計	男子	女子		計	男子	女子
3 (有)オオサカ薬局	1		1				
4 大手町調剤薬局	1		1	1 大阪薬科大学	3		3
5 (株)お か	1		1	2 神戸学院大学	1		1
6 (株)キリン堂	1	1		合 計	4		4
7 (株)幸和ドラッグ	2		2				
8 (株)コクミン	1	1		「大学院」			
9 (株)サンプラザ加地	2	1	1	計	男子	女子	
10 ジャスコ(株)	4	3	1	1 大阪大学	5	3	2
11 (株)白沢ドラッグ	(1)	(1)		2 大阪薬科大学	30(2)	19(1)	11(1)
12 セガミメディクス(株)	2	1	1	3 岡山大学	2	2	
13 (株)ダイエー	2		2	4 京都大学	2	2	
14 (株)タカサ	1	1		5 名古屋市立大学	1	1	
15 タキヤ商事(株)	3		3	6 名城大学	1	1	
16 (株)チェーンストア オークワ	2	2		合 計	41(2)	28(1)	13(1)
17 (有)永富調剤薬局	1		1				
18 (株)楠公堂薬局	2		2	「研究生」			
19 (株)バイアス	1		1	計	男子	女子	
20 阪急共栄物産(株)	1		1	1 大阪薬科大学	4(2)	4(2)	
21 (株)阪神調剤薬局	1(1)		1(1)	2 熊本大学	1	1	
22 ヒグチ産業(株)	1		1	合 計	5(2)	5(2)	
23 (株)柳井調剤薬局	1		1				
24 (株)マツモトキヨシ	1	1		「その他」			
25 松本薬局	1		1	計	男子	女子	
26 マミー薬局	1		1	1 自家業	5	2	3
合 計	36(2)	13(1)	23(1)	2 未就職	39(1)	12(1)	27
				3 海外留学	1	1	
				4 就職しない	1		1
				合 計	46(1)	15(1)	31

「公務員」

	計	男子	女子	
1 香川県	(1)		(1)	
2 大阪府	1	1		
3 奈良県	3	1	2	
4 広島県	(1)		(1)	
5 和歌山県	1		1	
1 大阪市	3	2	1	
2 岐阜市	1		1	
3 徳島市	1		1	
4 四日市市	1		1	
合 計	11(2)	4	7(2)	

() は大学院生

本学の薬学教育について

カリキュラム委員長 千熊正彦

大学設置基準が大綱化され、大学の自主性が尊重・重視されるようになり、各大学は設置の趣旨・理念にふさわしい特色あるカリキュラムを編成できるようになった。一方、厚生省は薬剤師国家試験制度を大幅に変更して、医療薬学分野の出題を増加させることを決めた。この二つの動きに伴い、薬学教育に関する議論は近来にたく沸騰し、文部省、厚生省、薬学教育協議会、日本私立薬科大学協会、日本薬剤師会、日本病院薬剤師会などにおいて種々の委員会が設置され、それぞれから答申や報告が出されつつある。また、この3月には新出題基準による薬剤師国家試験が実施され、試験の内容が明らかになった。

これらのことから今や本学のカリキュラムの改善に関する議論を深める絶好の時期となった。本学では設置基準の大綱化に対応する新カリキュラムを平成6年度に実施し、現在3年目に入っている。その間医療薬学の充実を目指した改正が薬学教育検討委員会(第1次)により行われた。今後の本学のカリキュラムに関して議論の中心になるのは、医療薬学関連の講義・実習をどのように充実させるかである。それを議論する際に、重要なことは薬学の社会的使命を踏まえて本学の教育目標として何に重点を置くかを明確にすることである。授業のコマ数の枠はおおよそ一定であるので、重複のある内容については話し合いのうえ、効率よく講義する工夫も必要であると考え。

参考までに表1に本学のカリキュラム改善に関する動きを、また表2に現行(1~3年次生)の必修科目配分数を示した。本学の薬学教育に関しては、教務部委員会、薬学教育検討委員会、医療薬学実習委員会、国試対策委員会、カリキュラム委員会、さらには大学院関連の委員会とも連絡を取りながら、

全学の総意を反映させる必要があろう。

表1 本学のカリキュラムの改善に関わる動き
([] 内は学外の動き)

平成2年5月	教育検討委員会設置
平成3年7月	[大学設置基準の改正省令施行]
平成5年5月	薬剤師国家試験対策委員会設置
平成5年7月	[薬剤師国家試験制度改善検討委員会中間意見]
平成6年4月	新カリキュラム実施
平成6年7月	薬学教育検討委員会(第1次)設置
平成7年4月	薬学教育検討委員会(第2次)
平成7年4月	[薬学教育基準検討委員会中間報告(五味委員会)]
平成7年5月	[薬学教育モデルカリキュラム案中間まとめ(古賀委員会)]
平成7年7月	カリキュラム委員会設置
平成8年3月	[新出題基準による薬剤師国家試験施行]
平成8年5月	薬学教育検討委員会(第3次)

表2 新カリキュラムにおける必修科目の配分数
() 内は医療薬学関連科目内数

年次	基礎共通科目	基礎薬学科目	応用薬学科目*
1 前期	7	6	0
1 後期	8	5	0
2 前期	4	7	0
2 後期	2	7(1)	3(2)
3 前期	2	1	9(5)
3 後期	1	1	7(4)
4 前期	0	0	7(4)
4 後期	0	0	4
計	24	27(1)	30(15)

*実習(13科目)を除く

薬学教育検討委員会よりの報告

薬学教育検討委員 森 逸 男

平成7年6月より8年5月までの第二次薬学教育検討委員会（委員長…森，委員…松永，藤田，掛見，碓井の各教授）は，第一次薬学教育検討委員会（委員長…玄番）の懸案審議事項「大学院における医療薬学コース」について，今後の薬学教育の年限問題も踏まえながら，慎重審議を重ね，最終案（2月10日付け）を作成し，本年2月の教授会に提案，説明して参りました。本案のカリキュラムの骨子は，夜間開講を含めた臨床薬学特論と演習，病院薬剤実習と臨床実務研修の実務実習，ならびに特別研究または特別調査研究などより構成されます。

新たな医療法，薬剤師法などの改正に伴い，医療の担い手としての薬剤師の任務においては益々その責任と重要性が指摘されております。すなわち，薬剤師は患者情報の把握と理解，治療目的と基本的な治療方針の理解，薬歴管理と服薬指導の実施，および薬物治療管理の実施などの面での活躍が要求されます。

したがって，十分に，慎重な教授会審議を重ねるため，改めて第三次薬学教育検討委員会（委員長…岡 学長，委員…森，玄番，坂田，稲森，掛見，草野の各教授）が選任されました。本薬学教育検討委員会は，長期的展望に立って，①学部における医療薬学の充実，②大学院における医療薬学コースの早期実現，に向け今後とも慎重審議を重ね，一層の努力を試みる予定です。

新キャンパスの学歌・歌詞募集

新学歌を作ることになりました！

現在の学歌は，松原市におけるものであり，大阪の南河内を意識した表現が歌い込まれております。

新キャンパスは大阪の北摂の地，阿武山の高台にありますので，それにふさわしい「歌詞」が必要だということになりました。（特に地名とか伝統にこだわることもありませんが……）

21世紀の大阪薬科大学をイメージし，未来の社会の要請を受け止めて，明るく爽やかな学園生活を送る姿を歌いあげたものをと願っております。

応募要項

★応募要領

歌詞と曲の両方を募集していますが，歌詞のみでも歓迎します。ただし，いずれも自作，未発表のものに限ります。字数・形態は自由ですが，2番3番と続く歌詞は必ず1番と字数を揃えてください。

★応募資格

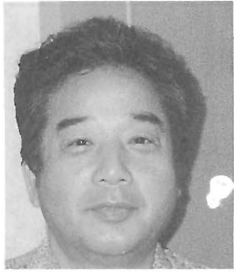
大阪薬科大学・学生，大学院生，教職員，父兄会，同窓会の皆さんとその方々から推薦された方など広く本学にかかわる方々です。

★応募の締切り

平成8年9月30日

★応募の宛先

大阪薬科大学・総務課 学歌制定委員会
〒569-11 大阪府高槻市奈佐原4丁目20番1号
TEL 0726-90-1010
FAX 0726-90-1005



第81回国家試験の結果と分析

薬剤師国家試験対策委員長 石 田 寿 昌

去る3月29日、30日の2日間にわたって新制度による第81回薬剤師国家試験が行われ、その結果、新卒者に関して、本学は全国46大学中15位、私立大学では29校中12位であった。前回の国家試験では全国第1位（新卒者）の合格率であったことから、国家試験対策委員長としてその責任を痛感すると共に、今回の国家試験内容と結果を分析し、次の国家試験対策の一助としたい。

「医療の担い手」として薬剤師の位置付けを明確にする目的で、今回からの新制度による国家試験では、従来の臨床軽視を是正すると共に、基礎化学知識の重視の立場から、出題教科と出題内容の変更、学説実施区分の廃止そして問題数の増加（全240問）がなされた。とりわけ、疾病と病態生理の項目が新しく加わった医療薬学の問題数が全体の半分（120問）を占めることになった。

新基準による教科別出題内容の特徴として、「基礎薬学」（60問）では「物質の構造と性質に関する問題」が半数以上（57%）で、特に有機化学系が多く出題された。次いで、「生体の構造と機能」33%、「天然医薬資源」8%となっている。「衛生薬学」では「ヒトと環境」42%、「栄養素栄養素と食品の化学」33%、「保健衛生」25%で、従来より保健衛生の出題が増えた。「薬事関連法・制度」では7割が「法律」に関する問題が出題され、「総論」20%、「制度」10%であった。一方、「医療薬学」での出題内容は、「医療薬学総論」が4%、「疾病と病態」が19%、「医薬品の有効性と安全性」が57%、そして「薬剤の調製と医薬品の管理」が20%の割合であっ

た。病態生理関連の増加に伴い薬理系の出題が増え、結果として、薬剤系と同数の60問となった。医療人としての薬剤師の重要性から、今後益々、医療現場に直結する薬理、薬剤学系およびその混合問題が増えるものと思われる。

国試対策委員会は、以上の第81回国家試験問題の内容分析を基に、本年度の薬剤師国家試験対策を計画している。しかし、今回1度の出題の分析では実質的な信頼性に乏しいことから、出来るだけ偏りのない対策と実力養成の指導をも心掛けている。

右の表は第81回薬剤師国家試験に対する本学学生（新卒者）の不合格者統計を示している。このデータから言えることは、(i) 本年3月始めに行った薬学総合演習再試験での129点以下（240点満点中）の学生、(ii) 平成7年12月時点で未修得が10科目以上の学生、(iii) 2年以上の留年経験の学生、そして(iv) 平成7年4月の4年次進級時に、未修得単位が10以上の学生、の不合格率は、全国平均(13.51%)に比べて、極めて高いことである [(i)～(iv)には同一の学生が含まれている]。したがって、これら学生に対する国試対策が本学の合格率を左右することは言うまでもなく、委員会としては能力別クラス編成などの必要な対策を積極的に講じているところである。

一方、昨年度、先生方の協力の下、できる限りの国試対策を行ったにもかかわらず、好成績を得られなかったことから、委員会では、従来のような国試対策ではその教育効果に限度のあること、そして、実力不足の学生に対しては個別指導に近い形での国

試対策がより効果的であることを痛感すると共に、このような形式による対策を可能にする現実的な手段としてコンピュータによるC A I (Computer Aided Instruction) 演習が最適であると考えてい

る。幸い、本学では情報科学演習室が完備されているので、本年度は特に(i)～(iv)の学生を対象に、従来の薬学総合演習に加え、C A Iによる国試対策も推し進めている。

第81回薬剤師国家試験不合格者調 (新卒者)

全国平均新卒者 (私学) 不合格率=13.51%

[1]	薬学総合演習再試験 (240点満点) (H 8. 3)		(不合格危険度)
	129点以下	11 / 22	50.0% * * * * *
	130 — 139	14 / 37	37.8% * * *
	140 — 149	8 / 56	14.3% *
	150点以上	5 / 102	4.9%
	正規試験合格者	3 / 110	2.7%
[2]	特別再試験未修得科目 (必修) 数 (H 7. 12)		
	10科目以上	11 / 23	47.8% * * * * *
	7 — 9	13 / 53	24.5% * *
	4 — 6	10 / 86	11.6%
	3科目以下	5 / 150	3.3%
[3]	留年経験者 (H 7. 4)		
	2留以上	7 / 18	38.9% * * *
	1留	8 / 52	15.3% *
	未留年	26 / 257	10.1%
	[H 7 卒留]	2 / 15	13.3%]
[4]	4年次進級時での未修得単位数 (H 7. 4)		
	10単位以上	15 / 53	28.3% * *
	5 — 9	17 / 146	11.6%
	4単以下	7 / 113	6.2%



平成8年度学校法人予算について

事務局長 河野 光 次

去る平成8年3月15日に開催された理事会および評議員会において、学校法人大阪薬科大学の平成8年度予算が審議のうえ承認されたので、消費収支予算書を掲載し、その概要を説明することとした。

(学生納付金)

今年度の学費改定(年額5万円値上げ)を反映し、前年度予算よりも約1億1千万円増の22億2100万円を計上した。

(寄付金)

新キャンパス移転事業寄付金5500万円を計上した。

(補助金)

経常費補助金は、移転による経費増を考慮して、前年度予算よりも3千万円増の2億4千万円を計上した。

施設整備費補助金は、NMR装置購入費の半額補助として4千万円を計上した。

(資産売却差額)

松原第二学舎及び学生寮の跡地売却益として10億8800万円を計上した。

(人件費)

平成9年3月定年退職者がいないため、退職給与当金繰入額が3千万円(平成7年度は2億2100万円)となり、人件費の総額として、前年度予算よりも約1億7千万円減の13億360万円を計上した。

(教育研究経費)

新キャンパス移転による経費増を見込んだため、前年度予算よりも約8千万円増の7億2520万円となった。

(管理経費)

松原第二学舎及び学生寮の跡地売却手数料3千万円、同建物撤去費用7500万円、新キャンパス記念式典費用1300万円等を計上したため、前年度予算よりも約7千万円増の2億8140万円となった。

平成8年度消費収支予算書

{平成8年4月1日から}
{平成9年3月31日まで}

消費収入の部 (単位 円)			
科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
学生生徒等納付金	2,221,000,000	2,110,000,000	111,000,000
手 数 料	95,100,000	72,000,000	23,100,000
寄 付 金	55,000,000	0	55,000,000
補 助 金	283,400,000	212,200,000	71,200,000
資産運用収入	15,000,000	20,000,000	△ 5,000,000
資産売却差額	1,088,000,000	0	1,088,000,000
事業収入	3,000,000	7,000,000	△ 4,000,000
雑収入	13,000,000	107,000,000	△ 94,000,000
掃蕩収入合計	3,773,500,000	2,528,200,000	1,245,300,000
基本金組入額合計	△ 2,500,000,000	△ 657,000,000	△ 1,843,000,000
消費収入の部合計	1,273,500,000	1,871,200,000	△ 597,700,000

消費支出の部 (単位 円)			
科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
人 件 費	1,303,600,000	1,477,700,000	△ 174,100,000
教育研究経費	725,200,000	641,800,000	83,400,000
管 理 経 費	281,400,000	206,900,000	74,500,000
借入金等利息	346,300,000	280,000,000	66,300,000
資産処分差額	68,500,000	0	68,500,000
[予 備 費]	30,000,000	30,000,000	0
消費支出の部合計	2,755,000,000	2,636,400,000	118,600,000
当年度消費支出超過額	1,481,500,000	765,200,000	716,300,000
前年度繰越消費支出超過額	926,100,000	796,000,000	130,100,000
翌年度繰越消費支出超過額	2,407,600,000	1,561,200,000	846,400,000

平成7年度学校法人決算について

事務局長 河野 光 次

去る平成8年5月17日に開催された理事会および評議員会において、学校法人大阪薬科大学の平成7年度決算が審議のうえ承認されたので、消費収支計算書を掲載し、その概要を説明することとしたい。

(収入)

平成7年度における帰属収入の合計額は、28億4459万円余で、予算よりも約3億2千万円増となっており、前年度よりも約2億3千万円の増収であった。

(支出)

平成7年度における消費支出の合計額は、22億1301万円余で、予算よりも約4億2千万円の減となっ

ており、前年度よりも約1億円の支出減であった。

教育研究経費、管理経費がともに大幅な予算残となっているが、これは平成7年度に予定されていた移転関連の諸費用(引越費用等)の支払が平成8年度にずれ込んだことによる。

以上の結果、平成7年度は約5千万円の支出超過となった。

平成7年度消費収支計算書

{平成7年4月1日から
平成8年3月31日まで}

消費収入の部 (単位円)			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	2,110,000,000	2,192,825,000	△ 82,825,000
手数料	72,000,000	104,994,896	△ 32,994,896
寄付金	0	128,639,888	△ 128,639,888
補助金	212,200,000	265,734,584	△ 53,534,584
資産運用収入	20,000,000	34,345,411	△ 14,345,411
事業収入	7,000,000	13,065,816	△ 6,065,816
雑収入	107,000,000	104,989,025	2,010,975
帰属収入合計	2,528,200,000	2,844,594,620	△ 316,394,620
基本金組入額合計	△ 657,000,000	△ 679,305,677	22,305,677
消費収入の部合計	1,871,200,000	2,165,288,943	△ 294,088,943

消費支出の部 (単位円)			
科目	予算	決算	差異
人件費	1,477,700,000	1,345,345,360	132,354,640
教育研究経費	641,800,000	479,402,621	162,397,379
管理経費	206,900,000	98,381,727	108,518,273
借入金等利息	280,000,000	288,999,664	△ 8,999,664
資産処分差額	0	883,718	△ 883,718
[予備費]	30,000,000	0	30,000,000
消費支出の部合計	2,636,400,000	2,213,013,090	423,386,910
当年度消費支出超過額	765,200,000	47,724,147	
前年度繰越消費支出超過額	796,000,000	649,810,860	
翌年度繰越消費支出超過額	1,561,200,000	697,535,007	

オープンキャンパス初日を終えて

教務部長 沼田 敦

キャンパス移転を契機に、広報活動の一環として本学初めてのオープンキャンパスを平成8年8月8日と30日に開催することを企画し、先日、その第1日目のイベントを終了しました。主に受験生のほか、高校1、2年生を対象に、内容は学長挨拶、入試概要説明、就職状況説明、大学紹介ビデオ上映、模擬実験および学内施設の見学、個別進学相談等とし、本学のアウトラインがわかるように設定しました。模擬実験としては「健康食品アシタバの化学」、「アドレナリンによる血圧の上昇と降下」、「抗生物質ペニシリンの発見」の三つのテーマのほか待ち時間を利用して参加者が簡単に試みられる「ドライアイスによる色のマジック」を企画しました。参加者への配布資料としては大学案内、平成9年度入試概要、平成8年度入試統計、平成8年度入試問題（実物）と解答・解説および小冊子（薬学への招待、薬学とごと、薬学キャンパス通信）、また、記念品として大学テレホンカードを用意しました。このイベントに対し、高等学校および予備校へのポスターおよびパンフレットの送付、薬学志望の高校3年生へのダイレクトメール、本学への入試資料請求者や問い合わせのあった方への連絡等によるピー・アール（PR）を行いました。

初めてのオープンキャンパスのため、最も気掛かりだったのは参加者の人数でした。近隣の薬系大学の例から1回のイベントにつき80名から120名を予想していましたが、初日の参加者は父兄を含めて予想以上の159名に達しました。イベントは学内見学



図書館見学

の予定時間が少々オーバーしたものの全体としてはほぼ順調に進行し、定刻に終了することができました。

参加者のアンケート（回答者118名）によれば、参加者の性別は女性75%、男性25%、学年は高校3年71%、高校2年11%、高卒受験生13%、また、参加者の住所は大阪66%、兵庫10%、京都8%、奈良5%、和歌山4%、滋賀3%のほか千葉、徳島、鳥取から各1名（各0.8%）の参加がありました。このイベントの開催を知った媒体としては、ポスター、パンフレットおよびダイレクトメールがあわせて約47%、友人が約23%、本学への問い合わせ等が約20%でした。

このイベントに対する全体的な感想として「大いに満足」、「満足」と回答した方があわせて約80%にものびりました。また、印象を書かれた68名のうち、「学舎、図書館を含む施設の素晴らしさに感動した」方が37%で最も多く、「模擬実験に興味を持った」方が18%、ただ「興味を持った」と書かれた方が12%ありました。このほか「電子顕微鏡に興味を持った」、「薬大の教育内容、就職状況、入試について理解できた」、「是非入学したい」、また、受験生が親しみを持つよう配慮して案内係等に大学院生を配置しましたが、「親切なお兄さんが印象的」、「院生とちょっと話がしたかった」、とか、模擬実験、学内施設の見学に相当の時間を要したため、「途中座りたかった」、「しんどかった」との意見もありました。

以上のように、いくつかの反省点があるものの今回の第一日目のイベントは企画、実施して頂いた方々のお陰で成功裡に終えることができうれしく思っております。



模擬実験見学

第3回市民講座を終えて

市民講座委員長 玄 番 宗 一

6月8日(土)は、朝から空が厚い雲に覆われていました。総務課では、次々と呼び出し音の鳴る電話をとりあげては、この日の行事案内への対応に追われていました。会場担当の教職員は、時折空模様を気にしながら、「大阪薬科大学市民講座」と記された真新しい案内板の設置や、会場内で映像・音声の調整に忙しく動いていました。11時を過ぎるころ、市民の方々が早々と受付にお見えになりました。12時半から始まった薬剤師22名のご協力による「くすりの相談室」は、たちまち市民からの相談で盛況になりました。その頃受付では、予め用意していた参加者用の資料入り封筒400名分が底をつき、急ぎよ補充に追われていました。

去る1月の寒い日でした。新キャンパスへの移転を目前にして移転地近隣の自治会と大学との懇談会の席上、市民から「移転後、大学は市民に何をしてくれるのか」との質問がありました。その折の回答の一つに「市民講座の開催」があったのを思い出します。その約束を果たす日に、約500名の参加者を新キャンパスに迎えることができたのです。

高槻移転記念として、学内や薬草園の見学に加えて「健康とくすり」にふさわしいお二人の演者(大阪医科大学・佐々木進次郎教授と本学・藤田直教授)を紹介したポスターや案内紙を作成するなど、本委員会委員や総務課職員が多様な広報活動を精力的に展開してくれました。その労に、市民の皆様方が積極的に反応してくださったことを今でもたいへんうれしく思っています。



市民講座会場(講堂)内で聞き入る参加者

最後になりましたが、共催してくださいました大阪府薬剤師会、大阪府病院薬剤師会、高槻市薬剤師会および大阪薬科大学同窓会、ならびに後援くださいました大阪府、高槻市および高槻市教育委員会に厚くお礼を申し上げます。今後も、市民のご要望に応えて一層内容を充実させ、市民講座の開催を継続して行きたいと考えています。

第14回公開教育講座

高度医療社会での薬剤師の役割

10月12日(土)

13時10分～13時20分

「第14回公開教育講座開講の挨拶」

大阪薬科大学長 岡 源郎

13時20分～15時00分

「レセプター占有理論に基づいた副作用の予測」

九州大学教授(薬学部) 澤田 康文

15時00分～15時30分 休憩

15時30分～17時10分

「高齢者疾患とくすり」

大阪市立弘済院附属病院内科副部長

(中央臨床検査部長) 揖場 和子

10月19日(土)

13時20分～15時00分

「最近の脂質検査の動向」

国立循環器病センター

臨床検査部技師長 片山 善章

15時00分～15時30分 休憩

15時30分～17時20分

「不随意運動と薬剤」

京都大学教授

(大学院医学研究科) 柴崎 浩

10月26日(土)

13時20分～15時00分

「遺伝子治療そして細胞性製剤への道」

大阪大学教授(薬学部) 真弓 忠範

15時00分～15時30分 休憩

15時30分～17時10分

「人薬物代謝個体差と薬物相互作用」

東北大学教授(薬学部) 山添 康

17時10分～17時20分

「第14回公開教育講座閉講の挨拶」

大阪薬科大学教授

公開教育講座委員長 掛見 正郎

薬用植物園見学会について

薬用植物園長 草野 源次郎

薬用植物に対する市民の関心は高い。多くの人の関心はどの植物がどの様に利用できるかということであるが、そのまま利用されては困る植物も多い。薬用植物への関心を繋ぎながら、家庭で利用できる安全な薬用植物を知ってもらう一方で、度々事故を起こしてきた植物や本格的な薬の原料にする植物を知ってもらいたい。薬用植物をよく知っていると、それらと関係がある活性酸素、免疫、薬効成分の吸収、代謝、分布、排泄、作用メカニズムなど、最新の薬学情報も抵抗感なく聞けるようである。

最近では短時間で200~300種の生きた植物を名前付きで見られるところが少なくなっている。同じ植物でも時と共に姿を変える。本来、人は植物に囲まれて、いろいろなことに気付きながら、生きてきた。都市での生活では何かを忘れてるように見える。薬用植物園の見学者には、その何かを探しにくる人も含まれる。

見てもらって恥ずかしくないように整備することは担当者の励みにもなる。充実した薬用植物園は学生達にも、本学の教職員にも喜びであろう。見学会を計画した理由は以上のように、様々である。

第1回見学会は平成8年6月8日、第2回は7月6日（土）に行い、第3回は9月21日（土）、第4回は10月12日（土）のそれぞれ10:00-12:00に予定している。来年も4、5、6、7、9、10月に各1回行いたいと考えている。

毎回、見学のための「しおり」を用意することと、説明者なしで見ても楽しめるように、楽しいラベルを用意することを急ぎたいと考えている。回を重ねていくうちに、いろいろなことに気付かされると予想している。本当に植物の好きな人と知り合いになれるのも、見学会の担当者の大きな楽しみである。活気のある薬用植物園を舞台に、若い人が植物を好きになり、植物に秘められた可能性を引き出すような研究を展開するようになれば、望外の喜びである。

◆ 大村理事長 日本薬学会名誉会員
に推挙される

◆ 大木理事 黄綬褒章を受章

◆ 友尾幸司助手 「第5回日本薬学会
近畿支部奨励賞」受賞

受賞研究

「日本マムシ毒由来ホスホリパーゼA₂の
立体構造と機能」

授賞式は、平成8年1月に烏丸京都ホテルで行われました。

特別講演は、平成8年10月27日（日）、
摂南大学で開催される第46回日本薬学会近
畿支部大会で行われることになっています。

実験動物慰霊祭

平成7年12月16日（土）、松原キャンパス34教室
において日頃実験動物に関係する教職員、学生約
150名参加のもと、実験動物慰霊祭がしめやかに執
り行われた。

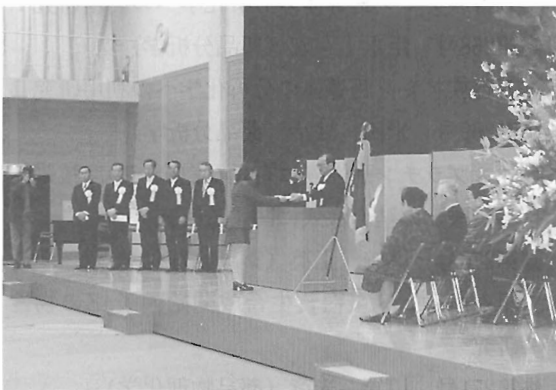
学位記授与式・卒業式

平成8年3月9日(土)、松原キャンパスの体育館において、平成7年度大阪薬科大学大学院学位記授与式(修士課程38名、博士課程1名)並びに第43回大阪薬科大学薬学部卒業式(327名)が来賓・父兄多数参列のもとに挙行された。



入学式

平成8年4月11日(木)、高槻新キャンパスの体育館において平成8年度大阪薬科大学および大学院入学式(学部276名、大学院修士課程30名、博士課程2名)が来賓・父兄多数参列のもとに挙行された。



学位授与

博士(薬学) (平成8年3月9日付)

博第8号 森野 重信(薬品物理化学)

蛋白質合成開始因子4EのmRNAキャップ構造認識機構に関する研究

修士(薬学) (平成8年3月9日付)

修第238号 安藤 敬(薬化学)

2'-Hydroxyepijuvabioneのエナンチオマーの全合成に関する研究

修第239号 入谷 雅士(薬化学)

アメフラシ由来真菌の細胞毒性代謝産物に関する研究

修第240号 岡 賢治(生薬学)

イヌトウキ近縁植物の形態学的、化学的、遺伝学的分類に関する一考察

修第241号 勝又 博司(生薬学)

八丈島産と伊豆大島産アシタバの比較検討に関する研究

修第242号 藤原亜紀子(生薬学)

ジンチョウゲ科植物のフェノール成分に関する研究

修第243号 松本 吉広(生薬学)

国内薬用植物園で植栽される *Glycyrrhiza* 属植物の実態調査と系統化のための基礎研究

修第244号 宮島 永(生薬学)

Pseudomonas fluorescens 由来シデロホアの単離・精製に関する基礎的研究

修第245号 木村 哲也(薬品製造学)

カンプトテシンの骨格変換による抗腫瘍活性物質の探索

修第246号 森山 英樹(薬品製造学)

抗潰瘍活性を目指したイミダゾールC-ヌクレオシドの合成研究

修第247号 大津 博則(医薬品化学)

カラマツ (*Larix kaempferi*) の葉および樹皮

- の含有成分に関する研究
- 修第248号 小松佐和子 (衛生化学)
ウサギ胃幽門部粘膜におけるプロスタグランジンの生合成および代謝に対する各種生薬成分の影響に関する研究
- 修第249号 坂本 英弘 (衛生化学)
ウサギ腎髄質におけるアラキドン酸からのプロスタグランジンおよびアラキドノイル-CoA合成の調節因子に関する研究
- 修第250号 池原 隆史 (生化学)
日本マムシ (*Agkistrodon blomhoffii blomhoffii*) 毒由来神経成長因子の精製とそのアミノ酸配列の決定
- 修第251号 喜多 孝蔵 (生化学)
ラット脳由来アストログリア細胞における神経成長因子の生合成を促進させる化合物の検索
- 修第252号 岡本 里香 (微生物学)
インフルエンザウイルスNP特異的CTLの持つTCRの多様性に関する研究
- 修第253号 大槻 崇人 (微生物学)
好熱性放線菌 *Streptomyces thermoviolaceus* OPC-520株由来キシラナーゼ遺伝子のクローニングおよびその塩基配列の決定
- 修第254号 木村 悦久 (微生物学)
海洋細菌 *Alteromonas* sp. O-7 株由来 β -N-アセチルグルコサミニダーゼ遺伝子のクローニングおよびその塩基配列の決定
- 修第255号 勝部 祐至 (微生物学)
海洋微生物由来の免疫抑制物質に関する研究
- 修第256号 中島 謙 (微生物学)
海洋微生物由来の免疫増強物質に関する研究
- 修第257号 村山 幸一 (微生物学)
神経細胞の分化におよぼす β -Casomorphinの影響
- 修第258号 山下 和昭 (微生物学)
ラット脳由来プロリルエンドペプチダーゼ阻害物質に関する研究
- 修第259号 上原由理子 (薬剤学)
ペプチド性医薬品の気管粘膜透過性に関する研究
- 修第260号 橋口 司 (薬剤学)
サケカルシトニンの薬理効果を指標とした最適投与計画の設定
- 修第261号 三浦 彰久 (薬剤学)
行動薬理学的手法を用いたデプレニルの生体内動態の解析
- 修第262号 卜部 和則 (薬理学)
新規一酸化窒素発生薬F K409のラット腎機能におよぼす影響について
- 修第263号 喜多紗斗美 (薬理学)
ラット腸間膜動脈における血小板のノルエピネフリン収縮増強作用とエンドセリン-1の関与について
- 修第264号 高田 貴美 (薬理学)
DOCA-食塩高血圧ラットにおけるエンドセリン-1の関与
- 修第265号 高田 英幸 (薬理学)
培養ラット血管平滑筋細胞の増殖におけるプロテアソームの関与
- 修第266号 井上 優 (薬理学)
肝細胞増殖因子(HGF)のシスプラチンによる培養腎上皮細胞障害への軽減作用
- 修第267号 佐藤 彰彦 (薬品分析学)
芳香族アミン誘導体の分析化学への利用研究 I
- 修第268号 臣永 宏 (薬品分析学)
芳香族アミン誘導体の分析化学への利用研究 II
- 修第269号 米田 誠治 (薬品分析学)
シスプラチン耐性癌に有効な白金(II)二核錯体と核酸との結合様式に関する研究
- 修第270号 尾崎 正英 (薬品物理化学)
組み換えヒト蛋白質生合成開始因子4Eの物性研究
- 修第271号 川端 光彦 (薬品物理化学)
大腸菌によるラット・カテプシンLの大量発現

と活性体調製の試み

修第272号 山根 篤志 (薬品物理化学)

ウシ臍臓由来ホスホリパーゼA₂前駆体とアミド型基質誘導体との相互作用に関する構造化学的研究

修第273号 鳥取 恵子 (放射薬品学)

アルドース還元酵素阻害作用を有するオキサゾール誘導体の研究

修第274号 福本 博之 (放射薬品学)

インビボ脳内mACH-R画像診断剤としてのR(-)-QIPAの評価

修第275号 岩本 晶子 (放射薬品学)

環境中のトリチウム濃度

学士 (薬学) (平成8年3月9日付)

薬第3485号～薬第3646号 薬学科 162名

製第2759号～製第2923号 製薬学科 165名

■学費の改定について (学部)

本学では、平成5年度より学費スライド制を実施していますが、来年度の学費については諸般の事情を考慮し慎重に検討を重ねた結果、約3% (5万円)の値上げを決定しました。

したがって、平成5年度以降の入学生の学費は、次のとおりとなります (平成4年度までの入学生の学費については改定されません)。

(単位 円)

	現 行	改定後
授業料 (年額)	1,000,000	1,000,000
実験・実習費 (年額)	200,000	200,000
施設・設備費 (年額)	450,000	500,000
計	1,650,000	1,700,000

松原 お別れの会開催

3月上旬、移転委員会が開催され、引越しについて話し合っている中で、松原の地元住民へお別れの挨拶をするために、4月1日午後6時松原キャンパスの体育館において、お別れ会を催すことが決まった。

当日は、河合、高見ヶ丘、高見元町の子供からお年寄りまで約180名の方が集まってくださった。

大村理事長、岡学長より、64年間お世話になったお礼の挨拶があり、地元を代表して、高見地区連合会会長の田中守氏よりお別れの挨拶をいただいた。

河合町会長の山本明氏の発声で乾杯を行い、パーティーが始まった。何度かお会いしたことのある懐かしい人達が多数来てくださり、昔話から別れを惜しむ会話がいつまでも尽きなかったが、午後8時閉会となった。

河合、高見の里の皆様、長い間お世話になり、ありがとうございました。

日本学術振興会・特別研究員

日本学術振興会は優れた若手研究者の養成・確保のため、昭和60年度から特別研究員の採用を実施している。

この度、平成8年度特別研究員に2名採用された。

森野 重信 (研究生/第二物理化学教室)

研究課題:「ヒト蛋白質合成開始因子4EのmRNAキャップ構造認識機構の解明」

採用期間:平成8年5月1日～平成11年3月31日

喜多紗斗美 (D1/第一薬理学教室)

研究課題:「エンドセリン-1およびエンドセリン変換酵素の病態生理学的意義」

採用期間:平成8年5月1日～平成11年3月31日

研 究 助 成

平成8年度

土井光暢助教授 (第一物理化学教室)

「薬学系特別研究助成」(120万円)

(助) 武田科学振興財団

ペプチドエナンチオマーによるプロテアーゼ阻害機構の解明と応用

池田 潔教授 (第一生化学教室)

「研究助成」(270万円)

(助) 喫煙科学研究財団

たばこ植物及び天然物中の神経成長因子合成促進作用物質及びNGF様物質の探索に関する研究

平成 8 年度文部省科学研究費補助金採択状況

職名	氏名	研究種目	研究課題	配分額(千円)
教授	石田 寿昌	基盤(B)(2)(継続)	立体構造解析に基づくカテプシンL選択特異的阻害剤の分子設計	1,400
助手	浦田 秀仁	基盤(B)(2)(継続)	ヌクレアーゼ耐性を有する新規アンチセンスヌクレオチドの分子設計	700
教授	千熊 正彦	基盤(C)(2)(継続)	シスプラチン耐性癌に有効な新規白金複錯体と核酸との結合様式に関する研究	400
教授	池田 潔	基盤(C)(2)(継続)	ホスホリパーゼ A ₂ および C の触媒機構の解明	800
講師	井上 晴嗣	基盤(C)(2)(継続)	毒ヘビの血液に存在する新規なホスホリパーゼ A ₂ 阻害タンパク質の阻害機構	800
助教授	土井 光暢	基盤(C)(2)(継続)	ヘテロ分子間の相互作用形態 —PNA の構造化学的性質と応用—	800
教授	栗原 拓史	基盤研究(C)(2)	新規ヒスタミンリガンドを目指したイミダゾールC-ヌクレオシドの合成研究	900
教授	森本 史郎	基盤研究(C)(2)	エンドセリン-1 の病態生理学的役割に関する研究	2,000
助教授	三野 芳紀	基盤研究(C)(2)	シテロホア構造を分子内に有する緑膿菌選択性β-ラクタム剤の開発研究	1,100
助手	高岡 昌徳	基盤研究(C)(2)	血管平滑筋細胞の分化・増殖に対するプロテアソームの制御機構について	2,100
助手	平田 雅彦	奨励研究 A	新規 SPECT 用モノアミノオキシダーゼ B 型活性診断薬剤の開発	900
助手	友尾 幸司	奨励研究 A	ホスホリパーゼ A ₂ の構造化学的研究と特異的阻害剤の分子設計	1,000
助手	尹 康子	奨励研究 A	非対称環状ペプチドの立体構造の安定性と生理活性との相関	900
助手	藤井 忍	奨励研究 A	Bacillus cereus 菌由来スフィンゴミエリナーゼの触媒機構の解明	1,000
研究生	森野 重信	特別研究員奨励費	ヒト蛋白質合成開始因子 4E の mRNA キャップ構造認識機構の解明	1,200
D1	喜多紗斗美	特別研究員奨励費	エンドセリン-1 およびエンドセリン変換酵素の病態生理学的意義	900
合計	16 人			16,900

平成 9 年度入学試験概要 (全日程)

区分	推薦入試(一般公募制)(S方式)	センター試験利用入試(C方式)	一般入試(G方式)
募集人員 (男・女)	薬学部 計70名	薬学部 薬学科 10名 製薬学科 10名 } 計20名	薬学部 薬学科 75名 製薬学科 75名 } 計150名
出願期間	H. 8. 11. 1 (金) ~ 11. 13 (水)	H. 9. 1. 8 (水) ~ 1. 17 (金)	H. 9. 1. 8 (水) ~ 1. 31 (金)
入学試験日	H. 8. 11. 17 (日)	[H. 9. 1. 18 (土) ~ 1. 19 (日)]	H. 9. 2. 6 (木)
合格発表日	H. 8. 12. 2 (月)	H. 9. 2. 5 (水)	H. 9. 2. 13 (木)
入学手続締切	H. 8. 12. 20 (金) 一括方式	[1次] H. 9. 2. 21 (金) 2段階方式 [2次] H. 9. 3. 21 (金)	[1次] H. 9. 2. 21 (金) 2段階方式 [2次] H. 9. 3. 21 (金)
試験場	本学(男女共)		本学(男)・大阪北予備校(女)
試験科目	[外国語] 英語 90分 100点 [小論文] 90分 100点	[数 学] 数学 I・数学 A 100点 数学 II・数学 B 100点 [外国語] 英語 200点 [国 語] 国語 I, 国語 I・II から 1 科目選択 200点 [理 科] 化学 I B 100点×2 生物 I B 物理 I B から 1 科目選択 (800点満点)	[数 学] 数 学 I 90分 100点 数 学 II 数学 A (数と式, 数列) 数学 B (ベクトル) [外国語] 英語 I 90分 100点 英語 II リーディング ライティング [理 科] 化学 I B 90分 100点 化学 II (300点満点)
入学検定料	35,000 円	20,000 円	35,000 円
募集要項	各高等学校に無料配付	C方式・G方式セットで販売(1部 1,000円 送料 400円)	

平成8年度 行事予定

4月11日(木)	入学式(学部・大学院)	10月22日(火)	平成9年度(第2次)大学院修士課程入学試験
4月12日(金)	新入生ガイダンス・アドバイザー面談	10月25日(金)	平成9年度(第2次)大学院修士課程入学試験合格者発表
4月13日(土)	校医講演・新入生健康診断	11月7日(木)	第31回大薬祭準備(午後臨時休講)
4月15日(月)	前期授業開始	11月8日(金)	}
4月16日(火)	健康診断(新入生以外の学生・教職員の女子)	11月11日(月)	第31回大薬祭等(臨時休講)
4月17日(水)	健康診断(新入生以外の学生・教職員の男子)	11月16日(土)	}
4月18日(木)	薬学総合演習オリエンテーション(4年次生)	11月18日(月)	第3回薬学総合演習総合試験(4年次生)
4月22日(月)	新入生奨学金ガイダンス	11月17日(日)	平成9年度推薦入学試験(一般公募制)
4月23日(火)	第81回薬剤師国家試験合格者発表(厚生省)	12月2日(月)	平成9年度推薦入学試験合格者発表
4月26日(金)	前期選択科目・選択必修科目履修届提出締切 午後3時(教務課), 基礎ゼミ(1年次生) 受講希望願提出締切 午後4時30分(教務課)	12月14日(土)	就職ガイダンス(3年次生)
5月9日(火)	創立記念日(休業)	12月17日(火)	実験動物慰霊祭
5月17日(金)	新入生歓迎会(五月祭)(午後臨時休講)	12月18日(水)	後期授業終了(4年次生)
5月25日(日)	高槻キャンパス竣工記念式典	12月20日(金)	特別再試験(4年次生)《前半》
6月8日(土)	第3回市民講座	12月20日(金)	後期授業前半終了(1~3年次生)
6月15日(土)	学友会球技大会	1月8日(水)	後期授業後半開始(1~3年次生)
6月22日(土)	薬学総合演習基礎薬学試験(物理分析系)(4年次生)	1月8日(水)	特別再試験(4年次生)《後半》
6月29日(土)	薬学総合演習基礎薬学試験(有機生薬系)(4年次生)	1月20日(月)	後期授業後半終了(3年次生)
7月12日(金)	前期授業終了(4年次生)	1月16日(木)	平成9年度大学入試センター試験実施準備(臨時休講)
7月16日(火)	前期定期試験(4年次生・4年次科目)	1月17日(金)	平成9年度大学入試センター試験(一般入学試験C方式)
7月26日(金)	前期授業終了(1~3年次生)	1月18日(土)	}
7月22日(月)	試験欠席届(4年次生・4年次科目)提出締切 午後1時(教務課)	1月19日(日)	後期授業後半終了(1・2年次生)
7月30日(火)	第1回薬学総合演習総合試験(4年次生)	1月20日(月)	後期定期試験(3年次生)
7月31日(水)	就職ガイダンス(4年次生)	2月1日(土)	}
7月31日(水)	オープンキャンパス(1回目)	1月23日(木)	後期定期試験(1・2年次生)《前半》
8月8日(木)	平成9年度大学院修士課程入学試験	2月4日(火)	}
8月20日(火)	平成9年度大学院修士課程入学試験合格者発表	1月30日(木)	薬学総合演習正規試験(4年次生)
8月29日(木)	オープンキャンパス(2回目)	1月31日(金)	就職ガイダンス(3年次生)
8月30日(金)	前期定期試験(4年次生・1~3年次未修得科目)	2月1日(土)	特別再試験・薬学総合演習正規試験(4年次生)成績発表
9月2日(月)	前期定期試験(1~3年次生)	2月5日(水)	平成9年度一般入学試験C方式合格者発表
9月13日(金)	試験欠席届(4年次生・1~3年次未修得科目)提出締切 午後1時(教務課)	2月6日(木)	後期定期試験(3年次生)・後期定期試験(1・2年次生)《前半》 欠席届提出締切 午後1時(教務課)
9月13日(金)	前期定期試験(1~3年次生)	2月12日(水)	平成9年度一般入学試験G方式(本学・大阪北予備校)
9月30日(月)	第2回薬学総合演習総合試験(4年次生)	2月14日(金)	後期定期試験(1・2年次生)《後半》
9月14日(土)	前期追試験(4年次生)	2月12日(水)	後期再試験(3年次生)受験者発表
9月17日(火)	後期授業開始(4年次生)	2月13日(木)	平成9年度一般入学試験G方式合格者発表
9月18日(水)	平成9年度特別実習説明会・就職ガイダンス(3年次生)	2月17日(月)	後期定期試験(1・2年次生)《後半》
9月20日(金)	後期授業前半開始(1~3年次生)	2月17日(月)	欠席届提出締切 午後1時(教務課)
9月24日(火)	前期定期試験(1~3年次生)欠席届提出締切 午後1時(教務課)	2月17日(月)	後期再試験(3年次生)
9月30日(月)	後期再試験(1~3年次生)・特別再試験(4年次生)受験者発表	3月1日(土)	}
10月1日(火)	前期再試験(1~3年次生)	2月25日(火)	後期再試験(1・2年次生)受験者発表
10月7日(月)	後期再試験(1~3年次生)	2月27日(木)	}
10月11日(金)	履修届提出締切(教務課)	2月28日(金)	薬学総合演習再試験(4年次生)
10月11日(金)	前期再試験(1~3年次生)・特別再試験(4年次生)受験者発表	3月1日(土)	}
10月19日(土)	後期再試験(1~3年次生)	3月14日(金)	後期再試験(1・2年次生)
12月21日(土)	前期再試験(1~3年次生)	3月6日(木)	卒業生発表(教務課)
		3月7日(金)	薬剤師国家試験模擬試験(4年次生希望者)
		3月14日(金)	第44回学部卒業式および第21回大学院学位記授与式
		3月22日(土)	進級者発表・進級者未修得科目発表(教務課)
		3月29日(土)	}
		3月30日(日)	第82回薬剤師国家試験

教務課だより

(学則)

- ①推薦入試の出願資格について
 平成9年度推薦入試から出願資格を
 ①全体の評定平均値が3.5以上の者
 ②出願者は、1校につき4名を限度とする
 に変更しました。

	現 行	改 正
(成績の評定) 第26条	授業科目履修の成績の評定は、 <u>A, B, C, D, Fの5種の評語</u> をもって表し、 <u>A, B, Cを合格とする。</u>	授業科目履修の成績の評定は、 <u>A, B, C, Dの4種の評語</u> をもって表し、 <u>A, B, Cを合格とする。</u>

- ②オープンキャンパスについて
 大学キャンパスの高槻移転を受験生(高校1・2年生を含む)に広くPRするため、8月8日(木)、8月30日(金)の両日、オープンキャンパスを開催しました。
 内容は、入試説明、模擬実験、学内施設見学、大学紹介ビデオ上映、個別相談で、平成8年度入試問題、平成9年度大学案内、テレホンカードを参加記念品として進呈しました。

(授業科目の履修要項)

	現 行	改 正
(進 級) 第11条	1 進級査定は <u>2年次及び3年次の年度末</u> に行う。	1 進級査定は <u>各年次の年度末</u> に行う。 2 <u>1年次から2年次への進級は、その年次までに課せられた科目(必修科目と選択必修科目)のうち、単位未修得科目が10科目以下のとき認められる。</u> (新規)

- ③学則等の一部改正について
 平成8年4月1日付で次のとおり改正されました。

平成8年度大阪薬科大学入学試験結果の概要

区 分	推薦入試(一般公募制) (S方式)			大学入試センター試験利用入試 (C方式)			一般入試 (G方式)			
募集人員 (男・女)	薬 学 部 計70名			薬学部 薬 学 科 10名 製薬学科 10名 } 計20名			薬学部 薬 学 科 75名 製薬学科 75名 } 計150名			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	合 計
志 願 者	33	145	178	309	785	1,094	642	1,071	1,713	2,985
受 験 者	33	141	174	309	784	1,093	622	1,035	1,657	2,924
合 格 者	7	63	70	45	130	175	174	402	576	821
入 学 者	7	63	70	5	6	11	62	133	195	276
試験科目	〔外国語〕 英 語 90分 100点 〔小論文〕 90分 100点			〔数 学〕 数 学 I 100点 数 学 II 100点 〔外国語〕 英 語 200点 〔国 語〕 国 語 200点 〔理 科〕 物 理 200点 化 学 生 物 から1科目選択			〔数 学〕・数 学 I 90分 100点 代 数・幾 何 基 礎 解 析 〔外国語〕 英 語 II 90分 100点 英 語 II B 英 語 II C 〔理 科〕 化 学 90分 100点			

学生課だより

○交通アクセスについて

キャンパスへのアクセスについては、JR東海道線（京都線）「摂津富田」駅または阪急「富田」駅で下車後、JR「摂津富田」駅前の高槻市営バス「JR富田駅」停留所④から、81番または91番の「公団阿武山」行き、または「大阪薬大前」行きに乗り、「大阪薬大前」で下車してください。

本学では、自動車・単車による通学は、通学途上の交通事故防止、近隣住民の方への騒音や不法駐車による迷惑防止、人身事故防止などに対処するため、学部学生の自動車・単車による通学を禁止しています。

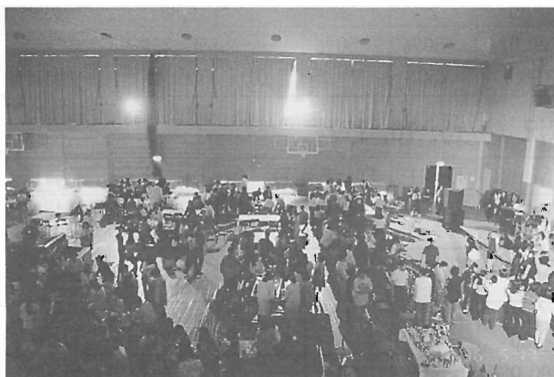
また、キャンパス内の交通安全を確保し、学園環境を保全するため、許可車両以外の入構を禁止しています。これに伴い学生諸君は、身体に障害があるなど特別な理由のある場合を除き、電車・バスなどの公共交通機関を利用して通学してください。

なお、一部学生が自動車・単車を使用し、大学近隣の路上などに迷惑駐車をしているとの苦情や抗議が多数大学に寄せられています。さらに大学の近くにおいて単車による人身事故も数件発生しています。学生諸君の自覚と節度ある態度を望みます。

○五月祭（新入生歓迎会）

5月17日（金）午後から体育館で、五月祭（新入生歓迎会）が行われました。

学生部長、執行委員長の挨拶の後、ビンゴゲーム、クラブ紹介、軽音楽部、フォークソング部の演奏があり、新入生と在在学生との交流を深めました。



○球技大会

6月15日（土）梅雨空の合間を縫って、ソフトボール大会が本学グラウンドで行われました。特研やクラブ関係の10チームが参加し、日頃の練習の成果……ダイビングキャッチ、トンネル、落球？を披露しました。

第一分析チームが優勝しましたが、裏方で頑張った野球部新入部員、執行部の皆さんご苦労さん！

○学生証について

4月1日から新学生証（黄色または緑色）を交付していますが、移転の関係で1995年入学者の有効期限は、1997年3月31日までの1年間になっています。黄色の学生証を持った学生は、更新の時期を間違えないように注意してください。更新時期は、掲示板でお知らせします。

また、住所欄に、旧住所を記入したままの学生が見受けられます。至急「住所変更」届と学生証を持参のうえ、学生課で手続きを済ませてください。

平成8年度 学友会執行委員会

執行委員長	宮井 尚春 2	(軽音楽部)
副執行委員長	白川 裕之 3	(フォークソング部)
総務局長	松岡 直子 3	(硬式テニス部)
総務副局長	吉田 早苗 3	(弓道部)
広報渉外局長	林 清美 3	(卓球部)
広報渉外副局長	原田 圭子 3	(グループAPO薬学研究部)
厚生局長	橋本 浩子 3	(E. S. S. 部)
厚生副局長	合田有香子 3	(バドミントン部)
体育局長	田中 邦佳 3	(バスケットボール部)
体育副局長	原 久美子 3	(陸上競技部)
文化局長	高橋 亮治 3	(コーラス部)
文化副局長	高田 千秋 3	(上方落語研究部)
会計	鶴屋 直美 3	(茶道部)
書記	柿沢 靖子 3	(フィールドヴォーカリーズ)

保健室だより

平成8年4月1日付で、柚木孝士医師が学校医として就任されました。柚木校医は、スポーツドクター（日本体育協会公認）でもあり、プロの運動選手との交流も深く、単に心身の健康面だけでなく、スポーツにおける健康管理についても相談してみてください。

○心電図検査について

昨年12月、保健室に「マイコン心電計」が設置され、平成8年6月17日～7月5日の期間に学部学生・大学院学生を対象に、検査を実施しました。

受診者内訳は体育局所属の学生38名（男23・女15）それ以外の学生14名（男8・女6）の計52名でした。安静時の心機能を知り自己の健康管理に役立てて欲しいと思います。また、運動時間の長短にかかわらず体育局所属の学生は、心臓に対して予備能力以上に負荷がかかりますので次回必ず受診してください。

平成7年度保健室利用状況

H. 7. 4. 1. ~ H. 8. 3. 31

月	利用者		利用内容						小計
	学生	教職員	外科系	内科系	健康指導・相談	休養	転送		
4	85	17	17	34	47	3	1	102	
5	226	29	25	50	173	6	1	255	
6	177	30	50	48	94	15	0	207	
7	163	19	31	30	113	8	0	182	
8	32	8	5	10	25	0	0	40	
9	115	21	21	25	87	2	1	136	
10	107	24	26	60	36	6	3	131	
11	117	30	41	59	38	7	2	147	
12	84	25	22	46	31	9	1	109	
1	23	11	5	15	13	1	0	34	
2	34	19	7	25	21	0	0	53	
3	4	21	16	9	0	0	0	25	
合計	1,167	254	266	411	678	57	9	1,421	

外科系……ガーゼ交換・湿布交換を含む。

健康指導・相談……健康診断受診証明の発行・検尿・血圧測定等を含む。

平成8年度学生定期健康診断受診状況（4/13, 16, 17） ※全項目受診者

区分	新入生	留年	2年次	3年次	4年次	M 1	M 2	D 1	D 2	D 3	総計
男子	$\frac{73}{74}$	—	$\frac{3}{103}$	$\frac{7}{116}$	$\frac{85}{97}$	$\frac{17}{19}$	$\frac{22}{25}$	$\frac{0}{1}$	$\frac{0}{1}$	—	$\frac{207}{436}$
女子	$\frac{201}{202}$	$\frac{0}{1}$	$\frac{4}{233}$	$\frac{8}{237}$	$\frac{191}{200}$	$\frac{9}{11}$	$\frac{5}{5}$	$\frac{1}{1}$	$\frac{1}{1}$	—	$\frac{420}{891}$
計	$\frac{274}{276}$	$\frac{0}{1}$	$\frac{7}{336}$	$\frac{15}{353}$	$\frac{276}{297}$	$\frac{26}{30}$	$\frac{27}{30}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{2}$	—	$\frac{627}{1,327}$
	99.3% <95.5>	0% <33.3>	2.1% <4.6>	4.2% <7.5>	92.9% <93.1>	93.5% <93.5>	90.0% <90.7>	50% <50>	50% <—>	— <0>	47.2% <49.4>

<>内は前年

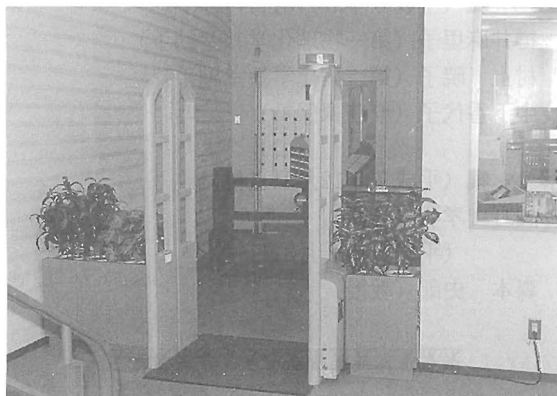
平成8年度胸部X線受診状況（4/13, 16, 17）

区分	新入生	留年	2年次	3年次	4年次	M 1	M 2	D 1	D 2	D 3	総計	教職員
男子	$\frac{73}{74}$	—	$\frac{3}{103}$	$\frac{8}{116}$	$\frac{85}{97}$	$\frac{17}{19}$	$\frac{22}{25}$	$\frac{0}{1}$	$\frac{0}{1}$	—	$\frac{208}{436}$	$\frac{42}{87}$
女子	$\frac{201}{202}$	$\frac{0}{1}$	$\frac{7}{233}$	$\frac{9}{237}$	$\frac{191}{200}$	$\frac{10}{11}$	$\frac{5}{5}$	$\frac{1}{1}$	$\frac{1}{1}$	—	$\frac{425}{891}$	$\frac{16}{32}$
計	$\frac{274}{276}$	$\frac{0}{1}$	$\frac{10}{336}$	$\frac{17}{353}$	$\frac{276}{297}$	$\frac{27}{30}$	$\frac{27}{30}$	$\frac{1}{2}$	$\frac{1}{2}$	—	$\frac{633}{1,327}$	$\frac{58}{119}$
	99.3% <100>	0% <33.3>	3.0% <6.2>	4.8% <8.7>	92.9% <93.1>	90.0% <93.5>	90.0% <90.7>	50% <50>	50% <—>	— <0>	47.7% <50.9>	48.7% <55.1>

入退館システムの導入に伴う
皆さんへのお願いについて

移転に伴い平成8年4月より図書館では、入退館システムを導入しました。

この入館システムでは、1日に何人入館したか、どの時間帯に集中するのか、利用者が何月に多く利用するのか、といった様々な統計をとることができます。その統計データをもとに利用者サービスの向上に努めたいと思っています。



システム導入後約4ヶ月が経過し、このシステムはようやく利用者に浸透しつつあります。

しかし、まだ利用者カードを忘れてくる利用者が少数あります。利用者カードを持参して入館するようお願いします。

また、退館システムはブックディテクションシステムと呼ばれ、図書の紛失を防ぐのに役立ちます。学生の勉学に必要な図書なども安全に保管され、再購入のために時間をとるなどといったこともなくなります。これにより、利用者の閲覧、調査、研究がスムーズに行われることとなります。

■ 法人事務

理事・監事・評議員の改選による異動

◇理事就任（平成8年6月20日付 任期は3年）

理事長 大村栄之助
理事 粟田 稔
理事 大木 令司
理事 岡 源郎
理事 梶川 益美
理事 河野 光次
理事 栗原 拓史
理事 澤木 茂
理事 西村 壯一
理事 藤田 武司
理事 森 逸男

◇理事退任（平成8年6月19日付）

小原 義行 堀田 輝明

◇監事就任（平成8年7月24日付 任期は2年）

石井 通洋 上島 育二

◇評議員就任（平成8年5月11日付 任期は3年）

粟田 稔 土井 勝
石田 寿昌 西村 壯一
上尾庄一郎 沼田 敦
大木 令司 藤井 寿夫
大村栄之助 藤田 武司
岡 源郎 藤原 富男
小原 義行 堀田 輝明
梶川 益美 松尾 壽之
喜多川一哉 水川 孝
香月 英男 森 逸男
栗原 拓史 村田 君江
澤木 茂 矢内原千鶴子
高橋 市子

◇評議員退任（平成8年5月10日付）

池田 潔 成定 昌幸
今中 宏 藤田 直
岡本 彰 吉矢 佑
曾根 節子

◇評議員辞任（平成8年6月19日付）

堀田 輝明

■ 学内人事

併任 (平成8年1月1日付)

防火管理者 栗原 拓史 (理事)

(平成8年4月1日付)

就職部長 森 逸男 (教授) 任期2年

図書館長 池田 潔 (教授) 任期2年

研究委員長 千熊 正彦 (教授) 任期1年

総務・施設担当 (平成8年4月1日付)

事務局次長 森本 武司

教授会・拡大教授会担当 (平成8年9月1日付)

広報図書課長 伊藤 美雄

昇任 (平成8年9月1日付)

課長 秋月 延夫 (経理課)

課長 松尾 真充 (総務課)

採用 (平成8年4月1日付)

副手 浅野 晶子 (第一物理化学教室)

副手 小林貴代美 (第二薬化学教室)

副手 関 しづか (元素分析室)

事務職員 山之内有右 (総務課)

配置換 (平成8年4月1日付)

山崎 修 (施設課長・新築工事事務所長より)

(平成8年9月1日付)

伊藤 美雄 (広報図書課長・総務課より)

吉田 弘子 (学生課係長・図書課より)

塚田ひろみ (広報図書課事務職員・総務課より)

嘱託 (平成8年4月1日付 期間1年)

柚木 孝士 (校医)

森本 史郎 (教授)

松永 春洋 (教授)

田中 千秋 (教授)

保坂 康弘 (教授)

岩本 勉 (助手)

(平成8年9月1日付 期間1年)

崎山 祐子 (事務職員)

招へい教授 (平成8年4月1日付 期間1年)

林 恭三 (客員研究員)

退任 (平成7年12月31日付)

森本 史郎・防火管理者

(平成8年3月31日付)

稲森 善彦・就職部長 (任期満了)

藤田 直・図書館長 (任期満了)

望月伸三郎・寮 監 (任期満了)

保坂 康弘・研究委員長 (任期満了)

森本 武司・施設課長 (併任を解く)

定年退職 (平成8年3月31日付)

松永 春洋 (教授)

田中 千秋 (教授)

保坂 康弘 (教授)

岩本 勉 (助手)

稲田 澄子 (寮母)

退職 (平成8年3月31日付)

樽井麻里子 (第一物理化学教室助手)

村上 暁子 (第二薬化学教室副手)

中下香代子 (庶務課係長)

解 嘱 (平成7年12月31日付)

関野 孝明 (守衛)

(平成8年3月31日付)

森本 史郎 (教授)

海外出張

千熊 正彦教授 (第一分析化学教室)

<出張期間:平成7年12月17日~12月23日>

アメリカ・ホノルルで開催の 1995 International Chemical of Pacific Basin Societies に出席

黒田 和道助教授 (第二微生物学教室)

<出張期間:平成8年4月27日~5月10日>

オーストラリア・ケアンズで開催の Options for the Control of InfluenzaIII に出席

草野源次郎教授 (第一生薬学教室)

<出張期間:平成8年7月19日~7月27日>

日本生薬研究者第二期第四次訪中団団長として 内蒙古の生薬事情を視察

掛見 正郎教授 (第二薬剤学教室)

＜出張期間：平成8年7月27日～8月5日＞
アメリカ・シアトルで開催の第8回日米生物薬
剤学シンポジウムで発表
アメリカ・バッファローで開催の1996バッファ
ロー薬剤学シンポジウムに出席

芝野真喜雄助手 (第一生薬学教室)

＜出張期間：平成8年7月26日～8月14日＞
イタリア・シチリア／スペイン・サラゴサ・パ
ンブローナにおいて南ヨーロッパにおけるカン
ゾウの自生状況の調査・研究

齋藤 陸弘講師 (第一分析化学教室)

＜出張期間：平成8年8月17日～8月23日＞
中国・北京で開催の The Sixth International
Symposium on SELENIUM in Biology and
Medicine で発表

鶴岡 浩志助手 (第二微生物学教室)

＜出張期間：平成8年8月10日～8月17日＞
イスラエル・エルサレムで開催の X th Inter-
national Congress of Virology で発表

千熊 正彦教授 (第一分析化学教室)

＜出張期間：平成8年8月24日～9月1日＞
ハンガリー・ブタペストで開催の第21回国際フッ
素研究学会で発表

石田 寿昌教授 (第二物理化学教室)

＜出張期間：平成8年8月7日～8月18日＞
アメリカ・シアトルで開催の第17回国際結晶学
会で発表

友尾 幸司助手 (第二物理化学教室)

＜出張期間：平成8年8月7日～8月18日＞
アメリカ・シアトルで開催の第17回国際結晶学
会で発表

松永 春洋教授 (医薬品化学教室)

＜出張期間：平成8年9月14日～9月22日＞
アメリカ・シカゴで開催の20th IUPAC Sym-
posium on the Chemistry of Natural Prod-
ucts で発表

平成8年度

各部・委員会・委員

◎各部署の長

(平成8年9月1日現在)

教務部

馬場きみ江 (助教授) 松島 哲久 (助教授)
松村 靖夫 (助教授) 藤本 陽子 (助教授)
辻坊 裕 (助教授) 大桃 善朗 (助教授)

学生部

木村捷二郎 (助教授) 松村 瑛子 (助教授)
藤田 芳一 (助教授) 春沢 信哉 (助教授)
楠瀬 健昭 (助教授)

就職部

赤木 昌夫 (教授) 松村 瑛子 (助教授)
土井 光暢 (助教授)

図書館

三野 芳紀 (助教授) 池田 潔 (教授)
松村 靖夫 (助教授) 濱中久美子 (助教授)
土井 光暢 (助教授)

広報委員会

森 逸男 (教授) 沼田 敦 (教授)
玄番 宗一 (教授) 池田 潔 (教授)
望月伸三郎 (教授) 掛見 正郎 (教授)
伊藤 美雄 (広報課長) 内田 勝彦 (就職課長)
松尾 真充 (総務課長) 藤田 純生 (学生課長補佐)
福永 治久 (教務課係長)

人権委員会

森 逸男 (教授) 沼田 敦 (教授)
阿部 功 (助教授) 松島 哲久 (助教授)
北氏 明正 (事務局次長
学生課長)

自己評価委員会

森 逸男 (教授) 沼田 敦 (教授)
栗原 拓史 (教授) 池田 潔 (教授)
望月伸三郎 (教授) 土井 勝 (教授)
千熊 正彦 (教授) 掛見 正郎 (教授)
河野 光次 (事務局長)

- 環境保全委員会** ◎松永 春洋(教授) 田中 千秋(教授) 池田 潔(教授) 保坂 康弘(教授) 玄番 宗一(教授) 稻森 善彦(教授) 山崎 修(施設課長)
- 防火対策委員会** ◎岡 源郎(学長) 森 逸男(教授) 沼田 敦(教授) 栗原 拓史(教授) 望月伸三郎(教授) 河野 光次(事務局長) 北氏 明正(事務局長
学生課長) 高橋 正好(教務課長) 山崎 修(施設課長) 松尾 真充(総務課長)
- 省エネルギー委員会** ◎岡 源郎(学長) 沼田 敦(教授) 栗原 拓史(教授) 望月伸三郎(教授) 千熊 正彦(教授) 河野 光次(事務局長) 山崎 修(施設課長)
- 薬用植物園** ◎草野源次郎(教授) 松永 春洋(教授) 沼田 敦(教授) 馬場きみ江(助教授) 木村捷二郎(助教授) 三野 芳紀(助教授) 西野 隆雄(講師) 喜多 俊二(助手) 谷口 雅彦(助手) 芝野真喜雄(助手) 山崎 修(施設課長)
- 実験動物センター運営委員会** ◎玄番 宗一(教授) 藤田 直(教授) 池田 潔(教授) 保坂 康弘(教授) 掛見 正郎(教授) 松村 瑛子(助教授) 松村 靖夫(助教授) 安田 正秀(講師) 西野 隆雄(講師)
- 総務委員会** ◎岡 源郎(学長) 森 逸男(教授) 沼田 敦(教授) 栗原 拓史(教授) 池田 潔(教授) 望月伸三郎(教授) 土井 勝(教授) 石田 寿昌(教授) 河野 光次(事務局長)
- 施設委員会** ◎岡 源郎(学長) 森 逸男(教授) 沼田 敦(教授) 藤田 直(教授) 栗原 拓史(教授) 池田 潔(教授) 土井 勝(教授) 石田 寿昌(教授) 千熊 正彦(教授) 河野 光次(事務局長)
- 研究委員会** ◎千熊 正彦(教授) 有本 正生(助教授) 大桃 善朗(助教授) 井上 晴嗣(講師)
- 入試委員会** ◎岡 源郎(学長) 森 逸男(教授) 沼田 敦(教授) 碓井 信二(教授) 望月伸三郎(教授) 千熊 正彦(教授)
- 入試制度委員会** ◎藤田 直(教授) 掛見 正郎(教授) 阿部 功(助教授) 加藤 義春(助教授) 藤田 芳一(助教授) 辻坊 裕(助教授) 黒田 和道(助教授)
- カリキュラム委員会** ◎千熊 正彦(教授) 玄番 宗一(教授) 掛見 正郎(教授) 藤田 芳一(助教授) 松島 哲久(助教授) 松村 靖夫(助教授)
- 薬学教育検討委員会** ◎岡 源郎(学長) 森 逸男(教授) 玄番 宗一(教授) 草野源次郎(教授) 掛見 正郎(教授)
- 大学院小委員会** ◎森 逸男(教授) 栗原 拓史(教授) 保坂 康弘(教授)
- 薬剤師国家試験対策委員会** ◎石田 寿昌(教授) 森本 史郎(教授) 沼田 敦(教授) 中元 安雄(助教授) 三野 芳紀(助教授) 辻坊 裕(助教授) 安田 正秀(講師)

医療薬学実習委員会 ◎掛見 正郎(教授)
千熊 正彦(教授) 赤木 昌夫(助教授)
馬場きみ江(助教授) 中元 安雄(助教授)
三野 芳紀(助教授) 森本 一洋(助教授)
西野 隆雄(講師)

R I 施設運営委員会 ◎田中 千秋(教授)
森本 史郎(教授) 沼田 敦(教授)
藤田 直(教授) 保坂 康弘(教授)
玄番 宗一(教授) 稲森 善彦(教授)
石田 寿昌(教授) 千熊 正彦(教授)
草野源次郎(教授) 掛見 正郎(教授)
木村捷二郎(助教授) 河野 光次(事務局長)

公開教育講座委員会 ◎掛見 正郎(教授)
玄番 宗一(教授) 稲森 善彦(教授)
馬場きみ江(助教授) 藤田 芳一(助教授)
春沢 信哉(助教授) 西野 隆雄(講師)

市民講座委員会 ◎玄番 宗一(教授)
草野源次郎(教授) 松村 瑛子(助教授)
松島 哲久(助教授) 土井 光暢(助教授)
西野 隆雄(講師) 古本 浩三(総務課係長)

動物実験委員会 ◎池田 潔(教授)
藤田 直(教授) 稲森 善彦(教授)
松村 瑛子(助教授) 松島 哲久(助教授)
安田 正秀(講師) 西野 隆雄(講師)
松尾 真充(総務課長)

組換えDNA実験安全委員会 ◎保坂 康弘(教授)
森本 史郎(教授) 田中 千秋(教授)
池田 潔(教授) 稲森 善彦(教授)
石田 寿昌(教授) 松島 哲久(助教授)
黒田 和道(助教授) 中井 益代(学外)
松尾 真充(総務課長)

バイオハザード予防委員会 ◎稲森 善彦(教授)
田中 千秋(教授) 池田 潔(教授)
保坂 康弘(教授) 松村 瑛子(助教授)
安田 正秀(講師)

情報科学解析センター運営委員会 ◎石田 寿昌(教授)
沼田 敦(教授) 望月伸三郎(教授)
土井 勝(教授) 千熊 正彦(教授)
掛見 正郎(教授) 土井 光暢(助教授)
大石 宏文(助手) 北氏 明正(事務局次長
学生課長)
高橋 正好(教務課長) 古本 浩三(総務課係長)
高橋 嘉明(広報図書課主任)

大型共同機器整備計画委員会 ◎千熊 正彦(教授)
栗原 拓史(教授) 保坂 康弘(教授)
土井 勝(教授) 石田 寿昌(教授)
掛見 正郎(教授) 三野 芳紀(助教授)
辻坊 裕(助教授) 大桃 善郎(助教授)

学歌制定委員会 ◎望月伸三郎(教授)
沼田 敦(教授) 坂田 勝治(教授)
石田 寿昌(教授) 三野 芳紀(助教授)
濱中久美子(助教授) 松尾 真充(総務課長)

交通委員会 ◎望月伸三郎(教授)
森 逸男(教授) 木村捷二郎(助教授)
春沢 信哉(助教授) 北氏 明正(事務局次長
学生課長)
山崎 修(施設課長) 松尾 真充(総務課長)

予算委員会 ◎大村栄之助(理事長)
岡 源郎(学長) 藤田 武司(理事)
森 逸男(教授) 沼田 敦(教授)
栗原 拓史(教授) 望月伸三郎(教授)
池田 潔(教授) 千熊 正彦(教授)
河野 光次(事務局長) 秋月 延夫(経理課長)

教員研究業績一覽 (1995年)

(1995. 1. 1~12. 31)

1. 研究學術論文

著者	題目	掲載誌
土井光暢, 尹 康子, 西野隆雄, 石田寿昌, 井上正敏, 他	Structural properties of synthetic ionophore GL_2E_4 diastereomers, 18-membered cyclic lactone tetraepoxides, by X-ray crystal analyses: possible relation between crystal structure and Ca^{2+} -transportation ability	Acta Crystallogr, B 51, 1045 (1995)
長田裕臣, 尹 康子, 土井光暢, 石田寿昌	Structural features of four tryptophan metabolite-picric acid molecular complexes	Acta Crystallogr, B 51, 1051 (1995)
中村匡宏, 友尾幸司, 石田寿昌, 他	Design of noncovalent trypsin inhibitor based on the X-ray crystal structure of the complex	Biochem. Biophys. Res. Commun., 213, 583 (1995)
中村匡宏, 友尾幸司, 石田寿昌, 他	Unique binding of a novel synthetic inhibitor, N-[3-[4-[4-(amidinophenoxy)carbonyl]phenyl]-2-methyl-2-propenoyl]-N-allylglycine methanesulfonate, to bovine trypsin, revealed by the crystal structure of the complex	Biochemistry, 34, 12849 (1995)
森野重信, 寺岡佳夏, 土井光暢, 石田寿昌, 上田仁司	Soluble expression of a synthetic gene for human translation initiation factor 4E in <i>Escherichia coli</i>	Biol. Pharm. Bull., 18, 372 (1995)
石田寿昌, 尹 康子, 長田裕臣, 土井光暢	Unusual intermolecular short contacts of C...C=2.3 Å in crystal structure of copper complex of schiff base of vitamin B ₆ phosphate ester; does it reveal an intermediate structure to σ -covalent bond formation?	Chem. Lett., 1137 (1995)
猪原武男, 樽井麻理子, 三原義鉄, 土井光暢, 石田寿昌	Binding specificity of mutagenic tryptophan pyrolysates for DNA conformation: spectroscopic and viscometric studies	Chem. Pharm. Bull., 43, 1607 (1995)
長田裕臣, 尹 康子, 友尾幸司, 土井光暢, 石田寿昌	Structural feature and molecular interaction of basic amino acid-picric acid complexes by X-ray crystal analyses	Chem. Pharm. Bull., 43, 1836 (1995)
河合央博, 樽井麻理子, 土井光暢, 石田寿昌	Enhancement of aromatic amino acid-nucleic acid base stacking interaction by metal coordination to base: fluorescence study on a tryptophan-Pt(II)-guanine ternary complex	FEBS Lett., 370, 193 (1995)
石田寿昌, 尹 康子, 他	Conformational features of 7,8,13 β , 14 α -tetrahydro-N7-methyl-corysaminium, a biosynthetic intermediate to the protopine-type alkaloid corycavine	Helv. Chim. Acta., 78, 80 (1995)
瀬川元住, 大野保則, 土井光暢, 石田寿昌	Solution conformation of selective dermorphin and selective deltorphin-I in phospholipid micelles, studied by NMR spectroscopy and molecular dynamics simulations	Int. J. Peptide Protein Res., 46, 37 (1995)

著 者	題 目	掲 載 誌
石田寿昌, 川本栄治, 尹 康子, 天野貴司, 金山重徳, 土井光暢, 他	Formation of imidazolopyrroloquinoline as main PQQ adduct with amino acid <i>in vitro</i> : X-ray structural evidence	J. Am. Chem. Soc., 117, 3278 (1995)
石田寿昌, 尹 康子, 篠崎史義, 土井光暢, 他	Solution conformations of patellamides B and C, cytotoxic cyclic hexapeptides from marine tunicate, determined by NMR spectroscopy and molecular dynamics	J. Org. Chem., 60, 3944 (1995)
石田寿昌, 他	1-tert-butoxycarbonyl-4-[N-(tert-butoxycarbonyl)-N-(ethoxycarbonylmethyl)amino]-3-phenylsulfonylethylpyrrolidine	Korean J. Cryst., 6, 27 (1995)
石田寿昌, 他	1-cyclopropyl-7-(2,7-diazabicyclo[3.3.0]oct-4-en-7-yl)-6-fluoro-8-methoxy-4-oxo-1,4-dihydroquinoline-3-carboxylic acid (HCl salt)	Korean J. Cryst., 6, 103 (1995)
土井光暢, 石部厚夫, 篠崎史義, 村田知子, 井上正敏, 安田正秀, 石田寿昌	Conserved δ -activity in reverse enantiomeric opioid peptide	Life Sci., 56, 1557 (1995)
土井光暢, 石田寿昌, 他	(S)-C ^{α} -ethyl, C ^{α} -benzylglycine [(S)-(α Et)phe] peptides fold in left-handed helical structures	Peptide Res., 8, 294 (1995)
尹 康子, 石田寿昌, 他	Four new β -carboline alkaloids isolated from two okinawan marine sponges of <i>xestospongia</i> sp. and <i>haliclona</i> sp.	Tetrahedron, 51, 3727 (1995)
石田寿昌, 他	Studies on the constituents of <i>Piper hancei</i> of spice from Okinawa	Natural Med. 49, 438 (1995)
大石宏文, 春沢信哉, 米田龍二, 栗原拓史, 他	(13-Methyl-1,4,7,8,13b-hexahydro[1', 2']-oxazepino[2' 3':1,2]pyrido[3,4-6]indol-1-yl)-methanol and its unusual packing style	Acta. Crystallogr. Sec. C., 51, 135 (1995)
大石宏文, 他	Excellent chiral induction by diene iron-tricarbonyl moiety. I: diastereoselective [4+2] type cycloaddition of 1-azatriene. iron-tricarbonyl complex	Chem. Pharm. Bull., 43, 559 (1995)
大石宏文, 他	A diguine synthesis using a novel cation radical-mediated intramolecular [3+2] cycloaddition of cyclopropyl sulfides	Tetrahedron Lett., 36, 4085 (1995)
森 逸男, 田口一彦, 藤田芳一, 松尾敬子	Sensitive spectrophotometric determination of human serum albumin (HSA) with (2-(5-bromo-2-pyridylazo)-5-(<i>N</i> -phenyl- <i>N</i> -sulfopropylamino)phenol) (5-Br. PAPS)-cobalt(II) complex	Anal Lett., 28, 225 (1995)
森 逸男, 松尾敬子, 豊田美奈子, 藤田芳一, の場千夏子, 赤銅圭子, 他	Application of α -hydroxyhydroquinonephthalin for the fluorophotometric determination of zirconium(IV) and gallium(III) in the presence of tetradecyltrimethylammonium chloride	Anal Lett., 28, 649 (1995)

著 者	題 目	掲 載 誌
森 逸男, 田口一彦, 藤田芳一, 松尾敬子	Spectrophotometric determination of hydrogen peroxide with 2-(5-bromo-2-pyridylazo)-5-(<i>N</i> -propyl- <i>N</i> -sulfopropylamino) phenolmolybdenum (VI), 2-(5-nitro-2-pyridylazo)-5-(<i>N</i> -propyl- <i>N</i> -sulfopropylamino) phenolvanadium(V) in the presence or absence of surfactant	Anal. Lett., 28, 1261 (1995)
森 逸男, 田口一彦, 藤田芳一, 松尾敬子	Improved spectrophotometric determination of uranium(VI) with 4-(2-pyridylazo) resorcinol in the presence of benzyldimethylstearyltrimethylammonium chloride	Fresenius' J. Anal. Chem., 353, 174 (1995)
森 逸男, 藤本 剛, 藤田芳一, 松尾敬子	Selective and sensitive spectrophotometric determination of copper (II) and benzoylperoxide with <i>N</i> -ethyl-2-naphthylamine	Talanta, 42, 77 (1995)
藤田芳一, 森 逸男, 松尾敬子	ピロカテコールバイオレットースズ(IV)錯体を用いるタンパク質の吸光光度定量	分析化学 (Bunseki Kagaku), 44, 733 (1995)
千熊正彦, 他	Time-resolved immunofluorometric assay for human interferon- γ	Anal. Sci., 11, 411 (1995)
齋藤睦弘, 藤井恒子, 本田正宏, 千熊正彦	セレノトリスルフィド類のスーパーオキシド消去活性	Biomed. Res. Trace Elements, 6, 263 (1995)
千熊正彦, 他	Pharmacokinetic evaluation of astemizole-theophylline interaction in healthy subjects	Jpn. J. TDM., 3, 61 (1995)
齋藤睦弘, 千熊正彦	Simple preparation of diethyldithiocarbamic acid selenotrisulfide	Naturwissenschaften, 82, 476 (1995)
平田雅彦, 大桃善朗, 田中千秋	Evaluation of radioiodinated iodocloglyline as a SPECT radiopharmaceutical for MAO-A in the brain	Nucl. Med. Biol., 22, 175 (1995)
木村捷二郎, 泰松明子, 他	Evaluation of enzymatic activity in γ -irradiated saccharated pepsin preparation	Bull. of Univ. of Osaka Pref., Ser B, 47, 105 (1995)
高橋千佳, 松下智哉, 土井光暢, 箕浦克彦, 沼田 敦, 他	Fumiquinazolines A-G, novel metabolites of a fungus separated from a <i>Pseudolabrus</i> marine fish	J. Chem. Soc. Perkin Transactions, 1, 1995, 2345 (1995)
高橋千佳, 高井 靖, 木村善則, 沼田 敦, 他	Cytotoxic metabolites from a fungal adherent of a marine alga	Phytochemistry, 38, 155 (1995)
高橋千佳, 箕浦克彦, 山田剛司, 沼田 敦, 他	Potent cytotoxic metabolites from a <i>Leptosphaeria</i> species. Structure determination and conformational analysis	Tetrahedron, 51, 3483 (1995)
沼田 敦, 他	Osmundalin (lactone glucoside) stimulates receptor cells, associated with deterrence, of <i>Bombyx mori</i>	Z. Naturforsch., 50c, 463 (1995)
春沢信哉, 川端雅世, 村井良彦, 米田龍司, 栗原拓史	New route to 1-(5-imidazolyl) ribofuranoid glycols from ribofuranosyl chloride and 5-lithio-imidazole	Chem. Pharm. Bull., 43, 152 (1995)

著 者	題 目	掲 載 誌
栗原拓史, 高井雅人, 大石宏文, 春沢信哉, 米田龍司, 他	Meisenheimer rearrangement of azetopyrido- indoles. VII. Ring expansion of 2-phenyl- hexahydroazeto [1',2':1,2] pyrido [3,4- <i>b</i>] indoles by oxidation with <i>m</i> -chloroperbenzoic acid	Chem. Pharm. Bull., 43 , 1089 (1995)
春沢信哉, 森山英樹, 加瀬尚毅, 大石宏文, 米田龍司, 栗原拓史	[3,3] Sigmatropic ring expansion of cyclic thionocarbonates. 13. Synthesis of medium- membered heterocyclic allenes and synthetic application to antifungal constituent of <i>Sapium Japonicum</i>	Tetrahedron, 51 , 6475 (1995)
春沢信哉, 村井良彦, 森山英樹, 大石宏文, 米田龍司, 栗原拓史	Stereoselective synthesis of the C-4 linked imidazole nucleosides using modified Mitsunobu reaction	Tetrahedron Lett., 36 , 3165 (1995)
草野昭子, 清水 桂, 伊堂寺真弓, 芝野真喜雄, 箕浦克彦, 草野源次郎	Studies on the constituents of <i>Cimicifuga</i> species. XVI. Three new cycloartane xylo- sides from the aerial parts of <i>Cimicifuga</i> <i>simplex</i> wormskjold	Chem. Pharm. Bull., 43 , 279 (1995)
三野芳紀	Protein chemotaxonomy of genus <i>Datura</i> . IV. Amino acid sequence of <i>Datura</i> ferredoxins depends not on the species but the section of <i>Datura</i> plants from which it comes	Chem. Pharm. Bull., 43 , 1186 (1995)
草野昭子, 芝野真喜雄 草野源次郎	Studies on the constituents of <i>Cimicifuga</i> species. XVII. Four new glycosides from the aerial parts of <i>Cimicifuga simplex</i> Wormsk.	Chem. Pharm. Bull., 43 , 1167 (1995)
関岡利明, 芝野真喜雄, 草野源次郎	Three trihydroxypiperidines, glycosidase inhibitors, from <i>Eupatorium fortunei</i> truz	Natural Medicines, 49 , 1332 (1995),
馬場きみ江, 谷口雅彦, 他	A new bicoumarin from <i>Pleurospermum</i> <i>rivulorum</i>	Chinese Chem. Lett., 6 , 385 (1995)
馬場きみ江, 谷口雅彦, 他	華山前胡的化学成分 (The chemical components of the root of <i>Peucedanum ledebourielloides</i>)	Journal of Plant Resources and Environment, 5 , 62 (1995)
馬場きみ江, 良川美智, 谷口雅彦, 小澤 貢	Biflavonoids from <i>Daphne odora</i>	Phytochemistry, 38 , 1021 (1995)
馬場きみ江, 谷口雅彦, 他	雲南羌活化学成分研究 (1)	中国中薬雑誌, 20 , 423 (1995)
馬場きみ江, 谷口雅彦, 他	中薬, 羌活のクマリン成分	薬学学報, 30 , 274 (1995)
田中麗子, 仙波治美, 松永春洋, 他	21 α -Hydroxy-3 β -methoxyserrat-14-en-30-al and other triterpenes from the cuticle of <i>picea jezoensis</i>	Phytochemistry, 38 , 1467 (1995)
藤井 忍, 田原康弘, 豊元 操, 羽田修二, 西村裕子, 井上晴嗣, 池田 潔, 他	Chemical modification and inactivation of phospholipase A ₂ by a manoalide analogue	Biochem. J., 308 , 297 (1995)

著 者	題 目	掲 載 誌
谷 健, 藤井 忍, 池田 潔, 他	New phospholipase A ₂ inhibitor: synthesis and inhibition mechanism of oxazolidinone phospholipid analog	Bioorg. & Med. Chem., 3, 1397 (1995)
谷 健, 藤井 忍, 井上晴嗣, 池田 潔, 他	Binding mode of phospholipase A ₂ with a new type of phospholipid analog having an oxazolidinone ring	J. Biochem., 117, 176 (1995)
小延鑑一, 豊元 操, 村井良彦, 山本英倫子, 來海徹太郎, 米田文郎	Effects of 10-n-Butyl-3-methyl-5-deazafravo-6,9-quinone (5-dF1Q) on Mitochondrial Respiration	Bioorg. Med. Chem. Lett., 5, 1601 (1995)
藤田 直, 佐久間覚, 藤本賢二郎, 吉岡公美子, 芦田恵美, 西田裕子, 藤本陽子	Effects of fatty acids and fatty acyl CoA esters on Cu ²⁺ -induced conversion of xanthine dehydrogenase to oxidase in rabbit liver	Free Rad. Biol. Med., 19, 487 (1995)
藤本陽子, 角森正英, 隅谷俊紀, 西田裕子, 佐久間覚, 藤田 直	Effects of fatty acyl coenzyme A esters on lipoxygenase and cyclooxygenase metabolism of arachidonic acid in rabbit platelets	Prostaglandins Leukotrienes Essent. Fatty Acids, 52, 255 (1995)
掛見正郎, 他	Pharmacokinetic and pharmacodynamic studies of centrally acting drugs in rat: Effect of pentobarbital and chlorpromazine on electroencephalogram in rat	Biol. Pharm. Bull., 18, 1094 (1995)
森本一洋, 治田達夫, 東島秀樹, 他	Enhancing mechanisms of saturated fatty acids on the permeations of indomethacin and 6-carboxyfluorescein through rat skins	Drug Dev. Ind. Pharm., 21, 1999 (1995)
森本一洋, 宮崎 誠, 掛見正郎	Effect of proteolytic enzyme inhibitors on nasal absorption of salmon calcitonin in rats	Int. J. Pharm., 113, 1 (1995)
松村靖夫, 塚原八重子, 児島たか代, 村田 聡, 村上暁子, 高田貴美, 高岡昌徳, 森本史郎	Effects of phosphoramidon on endothelin-1 and big endothelin-1 production in human aortic endothelial cells	Biol. Pharm. Bull., 18, 401 (1995)
松村靖夫, 江木康陽, 前川仁志, 三浦彰久, 村田 聡, 森本史郎	Enhancement of norepinephrine and angiotensin II-induced renal effects by N ^G -nitro-L-arginine, a nitric oxide synthase inhibitor	Biol. Pharm. Bull., 18, 496 (1995)
松村靖夫, 喜多紗斗美, 森本史郎, 他	Antihypertensive effect of sesamin. I. Protection against deoxycorticosterone acetate-salt-induced hypertension and cardiovascular hypertrophy	Biol. Pharm. Bull., 18, 1016 (1995)
喜多紗斗美, 松村靖夫, 森本史郎, 他	Antihypertensive effect of sesamin. II. Protection against two-kidney, one-clip renal hypertension and cardiovascular hypertrophy	Biol. Pharm. Bull., 18, 1283 (1995)
藤田克哉, 松村靖夫, 喜多紗斗美, 宮崎陽子, 久木一弘, 高岡昌徳, 森本史郎	Role of endothelin-1 and ET _A receptor in the maintenance of deoxycorticosterone acetate-salt-induced hypertension	Br. J. Pharmacol., 114, 925 (1995)

著 者	題 目	掲 載 誌
藤田克哉, 松村靖夫, 宮崎陽子, 高岡昌徳, 森本史郎	Role of endothelin-1 in hypertension induced by long-term inhibition of nitric oxide synthase	Eur. J. Pharmacol., 280, 311 (1995)
江木康陽, 松村靖夫, 三浦彰久, 村田 聡, 森本史郎	Interaction between nitric oxide and angiotensin II on antidiuresis and norepinephrine overflow induced by stimulation of renal nerves in anesthetized dogs	J. Cardiovasc. Pharmacol., 25, 187 (1995)
松村靖夫, 藤田克哉, 宮崎陽子, 高岡昌徳, 森本史郎	Involvement of endothelin-1 in deoxycorticosterone acetate-salt-induced hypertension and cardiovascular hypertrophy	J. Cardiovasc. Pharmacol., 26 (Suppl.), S456 (1995)
村田 聡, 松村靖夫, 高田貴美, 浅井ゆかり, 高岡昌徳, 森本史郎	Role of transforming growth factor- β 1 on platelet-induced enhancement of endothelin-1 production in cultured vascular endothelial cells	J. Pharmacol. Exp. Ther., 274, 1524 (1995)
米花 務, 玄番宗一	Hypoxia and reoxygenation-induced injury of renal epithelial cells: Effect of free radical scavengers	Jpn. J. Pharmacol., 68, 231 (1995)
北井郷美, 玄番宗一, 他	ランダムエステル交換油を用いたリパーゼの脂肪酸特異性の評価	科学と工業, 69, 95 (1995)
黒田和道, 山科勝則, 北谷典丈, 鍵嶋厚伸, 保坂康弘, 他	Characterization of defectiveness in endogenous antigen presentation of novel murine cells established from methylcholanthrene-induced fibrosarcomas	Immunology 84, 153 (1995)
黒田和道, 中島麻里子, 保坂康弘, 他	Identification of K ^b -restricted T-cell epitope within influenza virus nucleoprotein	Virus Res., 38, 43 (1995)
辻坊 裕, 藤本和博, 丹野博美, 宮本勝城, 木村悦久, 稲森善彦, 他	Molecular cloning of the gene which encodes β -N-acetylglucosaminidase from a marine bacterium, <i>Alteromonas</i> sp. strain O-7	Appl. Environ. Microbiol., 61, 804 (1995)
辻坊 裕, 遠藤 博, 宮本勝城, 稲森善彦	Expression in <i>Escherichia coli</i> of a gene encoding a thermostable chitinase from <i>Streptomyces thermoviolaceus</i> OPC-520	Biosci. Biotech. Biochem., 59, 145 (1995)
稲森善彦, 室 親明, 豊田麻里, 宇佐美吉英, 辻坊 裕, 沼田 敦	Root-growth inhibition by DL-homocysteine thiolactone and its related compounds	Biosci. Biotech. Biochem., 59, 523 (1995)
辻坊 裕, 藤本和博, 木村悦久, 宮本勝城, 稲森善彦, 他	Purification and characterization of β -N-acetylglucosaminidase from <i>Alteromonas</i> sp. strain O-7	Biosci. Biotech. Biochem., 59, 1135 (1995)
辻坊 裕, 折越英介, 稲森善彦, 他	Identification of the positions of disulfide bonds of chitinase from a marine bacterium, <i>Alteromonas</i> sp. strain O-7	Biosci. Biotech. Biochem., 59, 1981 (1995)
松村瑛子, 佐藤卓史, 豊田憲子	Isolation and characterization of a microbial Arg/Lys carboxypeptidase, carboxypeptidase F	Letters in Applied Microbiol., 20, 157 (1995)

著者	題目	掲載誌
碓井信二	Eine literarische hoellenfahrt durch die kultur der weimarer zeit (III)	ばいでいあ, 20, 35 (1995)
加藤義春	Theorien zum Nationalstaatsproblem (I)	ばいでいあ, 19, 35 (1995)
濱中久美子	犠牲の炎 (1)	ばいでいあ, 19, 85 (1995)
楠瀬健昭	バクスターとの和解	とい, XV, 47 (1995)
望月伸三郎, 他	ストレスによる発情周期ラットのACTH, Corticosterone, β -END の変動	スポーツ科学・健康科学研究 XIII, 73 (1995)
[追補 1994] 三野芳紀	Identical amino acid sequence of ferredoxin from <i>Datura metal</i> and <i>D. innoxia</i>	Phytochemistry, 35, 385 (1994)
三野芳紀	Amino acid sequence of ferredoxin from <i>Datura arborea</i>	Phytochemistry, 37, 429 (1994)
鈴木靖規, 松村靖夫, 他	新規ループ利尿薬トラセミドの麻酔犬における腎血行動態および腎機能におよぼす影響	基礎と臨床, 28, 2257 (1994)

2. 総説・解説

著者	題目	書名または掲載誌 (出版社)
森野重信, 上田仁司, 土井光暢, 石田寿昌	蛋白質合成開始因子-4E の遺伝子発現と mRNA キャップ認識機構の研究	薬学雑誌, 115, 401 (1995)
千熊正彦	希土類錯体を標識剤とする高感度分析法	ぶんせき, 1995, 742 (1995)
平田雅彦	放射線を用いた癌の治療-Radioimmunotherapy の治療効果の評価	ファルマシア, 31, 1173 (1995)
木村捷二郎, 泰松明子, 他	γ 線照射法による生薬の微生物汚染対策の問題点	J. of Antibact. Antifung. Agents, 23, 691 (1995)
木村捷二郎	生薬原料の品質保証への放射線利用	放射線と産業, 67, 27 (1995)
春沢信哉, 栗原拓史	総合論文: 中環状チオノカルボナートの [3,3] シグマトロピー転位を経由した環拡大反応	有機合成化学協会誌, 53, 712 (1995)
春沢信哉	十字路…… [3,3] シグマトロピー転位, 環状アレン	有機合成化学協会誌, 53, 739 (1995)
芝野真喜雄, 北川智, 草野源次郎	コウゾ (<i>Broussonetia kazinoki</i> Sieb.) から得られる新ピロリジンアルカロイド及び配糖体の構造	第37回天然有機化合物討論会, 講演要旨集, 28, 433 (1995)
草野源次郎	甘草物語	日本薬用植物友の会会報, 63, 3 (1995)
草野源次郎	芍薬物語	日本薬用植物友の会会報, 64, 8 (1995)
草野源次郎	薬用植物成分と毒性	中毒研究 (Jpn. J. Toxicol.), 8, 135 (1995)

著 者	題 目	掲 載 誌
馬場きみ江	アシタバが効く	わたしの健康, 4, 176 (1995)
馬場きみ江	アシタバ茶ダイエット	わたしの健康, 7, 76 (1995)
馬場きみ江	田七の花のお茶	わたしの健康, 10, 195 (1995)
松村靖夫	エンドセリン変換酵素のクローニング	医学のあゆみ, 172, 166 (1995)
松村靖夫	エンドセリンの病態生理学的意義に関する新しい展開	ファルマシア, 31, 1302, (1995)
玄番宗一	薬物性腎障害の基礎的研究	日本泌尿器科学会誌, 86, 13 (1995)
保坂康弘	<特集 ウイルスの構造> 特集よせて —Caspar & Klug を超えて—	細胞, 27, 446 (1995)
保坂康弘	<特集 ウイルスの構造> クライオ電子顕微鏡は ウイルス粒子サイズを制御する機構を明らかにし, その機構は HIV にも適用できそうだ (次論文翻訳). Dr. Stephan D. Fuller: Cryoelectron micro- scopy reveals mechanisms for the control of virion size and suggests their application to HIV.	細胞, 27, 447 (1995)

3. 著書

著 者	書 名	出 版 社
齋藤睦弘, 他	放射薬品学概論	廣川書店 (1995)
田中千秋	薬学 放射化学 薬品学 第5章, 第6章, 第8章	廣川書店 (1995)
木村捷二郎, 他	大阪地方における屋内ラドン濃度の季節変化に関する研究 (序報)	日本原子力学会 (1995)
木村捷二郎, 他	1章 放射線とアイソトープの利用	廣川書店 (1995)
栗原拓史, 他	ソロモンの新有機化学, (上) (下), 第4版	
馬場きみ江	健康野菜あしたば	チクマ秀版社 (1995)
松永春洋	岐阜県の樹木と私 「含有成分の医薬への応用を目指して」	岐阜県関西レポート, 32, 17 (1995)
掛見正郎, 森本一洋, 他	'95年版常用医薬品情報集	廣川書店 (1995)
掛見正郎, 森本一洋, 他	例題+ポイント 医療薬学 II	廣川書店 (1995)
松村靖夫, 高岡昌徳, 久木一弘, 森本史郎	Endothelin-converting enzyme and its inhibitors: Pathophysiological significance	In Endothelin: Role in health and disease, Switzerland: Harwood Academic Publishers gmbh (1995)

著 者	書 名	出 版 社
保坂康弘	パラインフルエンザウイルス糖蛋白質：免疫電顕法 (分担執筆) 「電子顕微鏡でみるミクロの世界—生物編—(編集) 日本電子顕微鏡学会	学際企画 (1995)
松島哲久	臨床看護のディレンマ II—看護の実例と生命倫理 M. Benjamin, J. Cartis 著	時空出版 (1995)
楠瀬健昭, 他	Orbit English Writing	三省堂 (1995)

親和会だより

パーティ・クルーズとパーティ&シャンソン

大阪薬科大学親和会の行事として、ここ数年は、会員間の親睦を深めるために、夏にはスポーツ大会が、冬には一泊旅行が行われてきました。しかし、平成7年度は、3月に大学のキャンパス移転があり、3月の旅行は日程的に無理ではないかという考えから、他の幹事(米田、齋藤(貴)、讃木)と相談し、なるべく新趣向を取り入れた2回のパーティを行うことになりました。

1回目は、大阪南港から出発して神戸港沖を周遊するパーティ・クルーズを7月21日(金)に行い、77名の参加を得ました。船上でのディナーという親和会の行事としては初めての試みでしたが、海の上での解放感を味わい夜景の美しさを鑑賞しながらフランス料理を堪能しました。船ということで天候な

ども気にしておりましたが、幸い好天に恵まれ、無事帰船でき、ほっといたしました。

2回目は、パーティ&シャンソンと題して2月23日(金)にホテルでパーティを行い、76名の参加を得ました。料理、お酒をいただきながら、和やかな雰囲気の中かで談笑し、また、ひとときをピアノの生演奏をバックにシャンソンを存分に楽しみました。移転前の忙しい中、多数の会員の皆様方に参加をいただき、普段とはちがった時間を共有し、大いに語りあうことができたと思います。

本年度は旅行という形ではありませんでしたが、このようなタイプの行事も親睦を深める上では良いのではないかと思います。

最後に幹事の数々の不行届にも拘わらず、無事に親和会の行事を終えられましたのも、会員の皆様方のご協力の賜と幹事一同心よりお礼申し上げます。

(親和会幹事 藤本陽子 記)



編集後記

遅まきながら学報34号をお届けします。

松原市の高見ノ里から高槻市の阿武山丘陵への大学移転，そして新しい広報委員会の設置，学報作成ワーキンググループでの学報のあり方などについての討議など，あれやこれやで発行がおそくなりました。申し訳ありません。

本号は，移転特集号といたしましたが，形式は従来通りのものです。今後の学報のあり方，学報とは一味ちがった広報紙の発行の是非など御意見がありましたらお寄せ下さい。

学報作成ワーキンググループ：岡 源郎，池田 潔，
藤田芳一，藤本陽子，
七井光暢，藤田純生，
占本浩三



発 行

大阪薬科大学広報委員会

〒569-11 大阪府高槻市奈佐原4-20-1

TEL (0726) 90-1000 (代表)

FAX (0726) 90-1005